

第6章

在宅介護実態調査結果

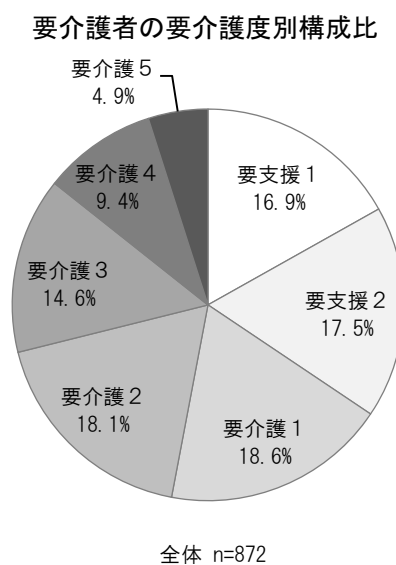
(主な家族介護者)

第6章 在宅介護実態調査結果

1 ご本人（要介護者）の状況について

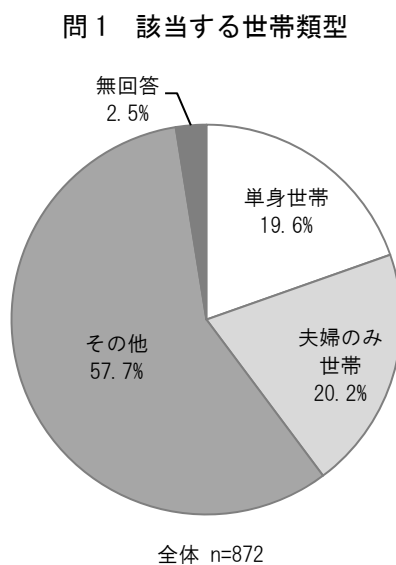
(1) 要介護者の要介護度

○要介護者の要介護度をみると、「要介護1」（18.6%）が最も高く、次いで「要介護2」（18.1%）、「要支援2」（17.5%）、「要支援1」（16.9%）、「要介護3」（14.6%）の順となっています。



(2) 要介護者の世帯状況

○要介護者に該当する世帯類型をみると、「その他」（57.7%）が最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」（20.2%）、「単身世帯」（19.6%）の順となっています。

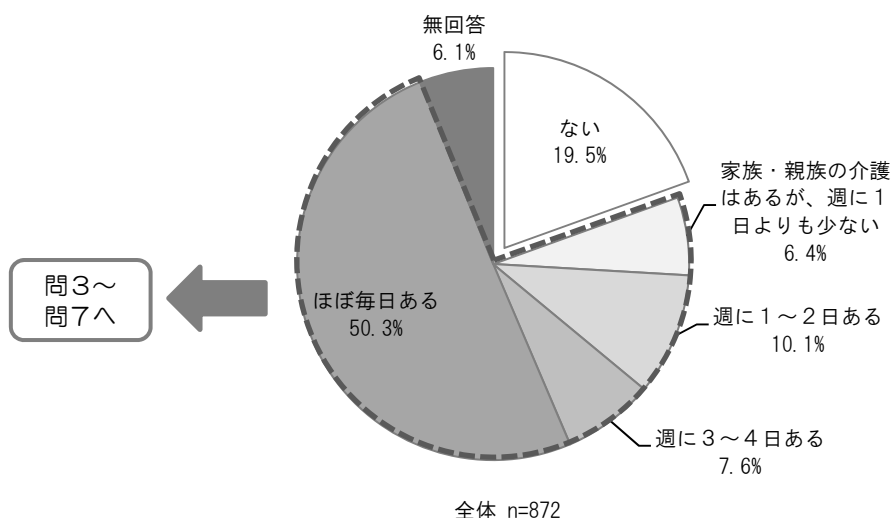


(3) 家族・親族による介護の頻度

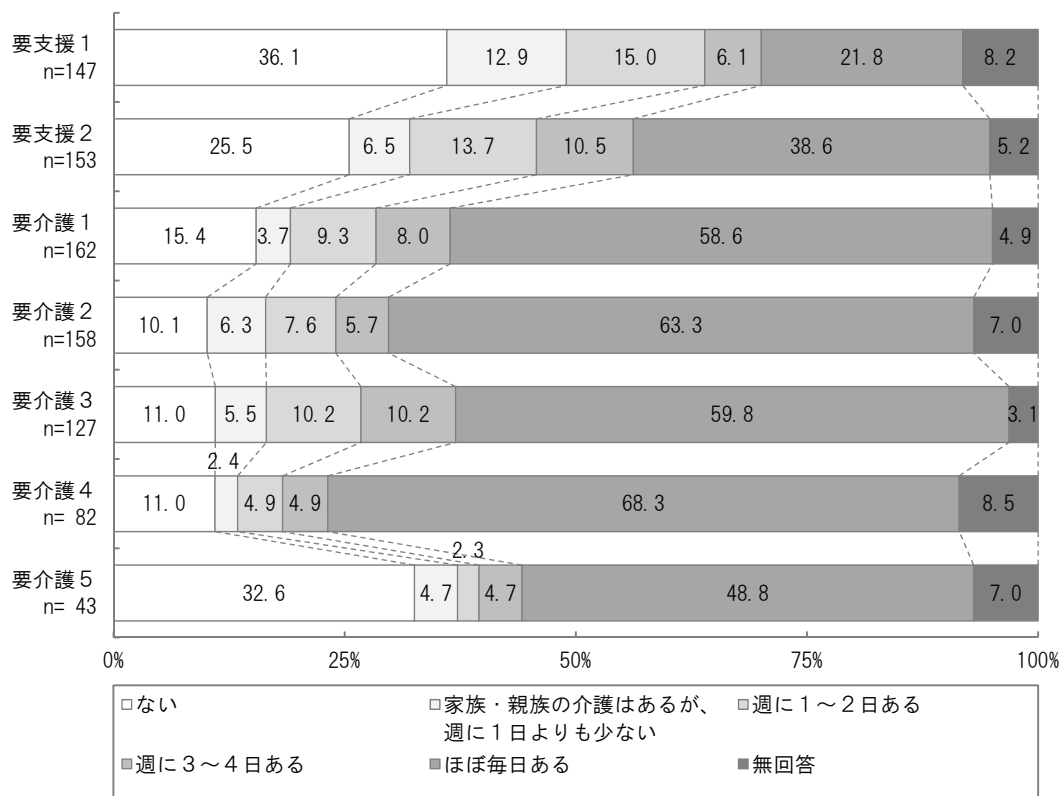
○家族・親族から介護してもらう頻度をみると、「ほぼ毎日ある」(50.3%)が最も高く、次いで「ない」(19.5%)、「週に1～2日ある」(10.1%)の順となっています。

○要介護度別にみた家族・親族による介護の頻度は、要支援1では「ない」(36.1%)が最も高く、次いで「ほぼ毎日ある」(21.8%)となり、一方、要支援2及び要介護1～5では、「ほぼ毎日ある」(68.3～38.6%)が最も高く、次いで「ない」(32.6～10.1%)となっています。

問2 家族・親族から介護してもらう頻度

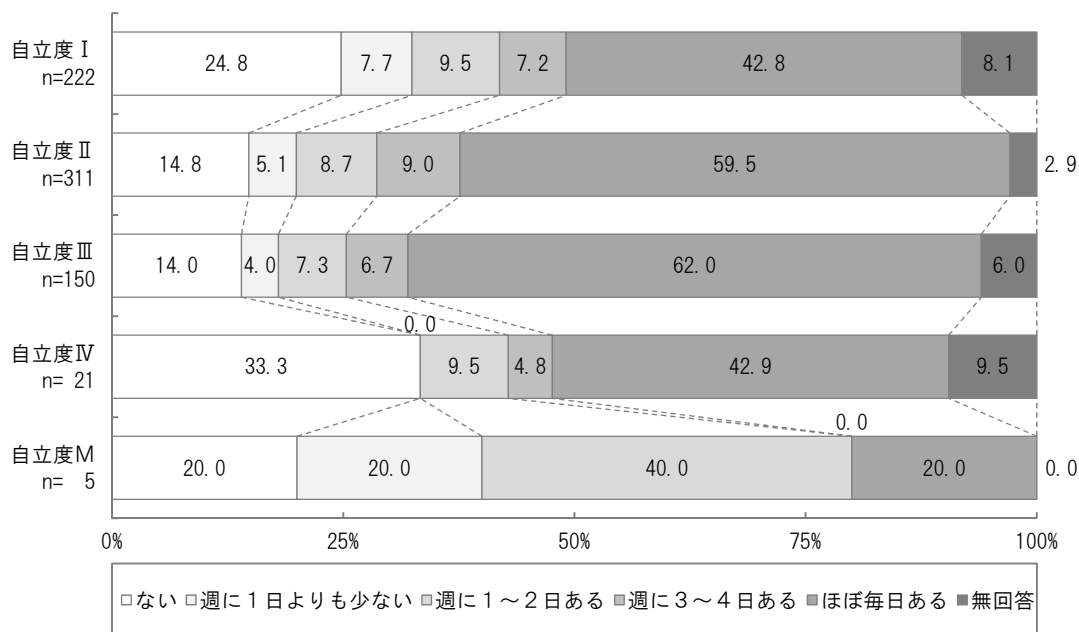


「要介護度」×「問2 家族・親族から介護してもらう頻度」



○認知症高齢者日常生活自立度別にみた家族・親族による介護の頻度は、自立度Ⅰ～Ⅳでは「ほぼ毎日ある」(62.0～42.8%)が最も高く、次いで「ない」(33.3～14.0%)となっています。

「認知症高齢者日常生活自立度」×「問2 家族・親族から介護してもらう頻度」



※認定データとの突合

※認知症高齢者日常生活自立度・・・高齢者の認知症や障害の程度を踏まえた介護の度合いをレベルごとに分類したもの。

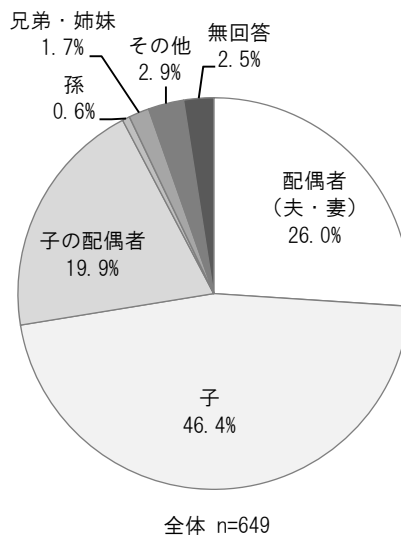
- Ⅰ：何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
- Ⅱ：日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
- Ⅲ：日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
- Ⅳ：日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
- M：著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

2 主な介護者等の状況（属性等）について

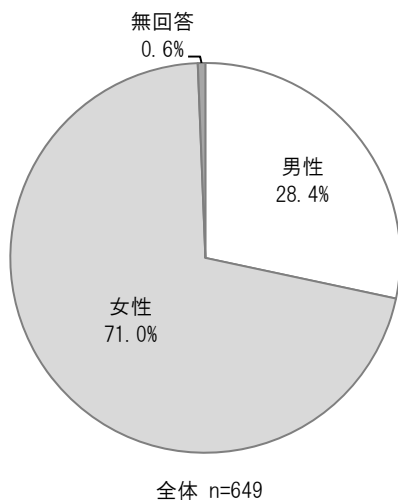
（1）主な介護者の状況

- 要介護者からみた主な介護者は、「子」(46.4%)が最も高く、次いで「配偶者」(26.0%)、「子の配偶者」(19.9%)の順となっています。
- 主な介護者の性別は、「女性」(71.0%)が「男性」(28.4%)の2.5倍となっています。
- 主な介護者の年齢は、「60～69歳」(35.0%)が最も高く、次いで「50～59歳」(24.3%)、「80歳以上」(16.6%)、「70～79歳」(16.3%)の順となっており、70歳の介護者が3割を超えています。

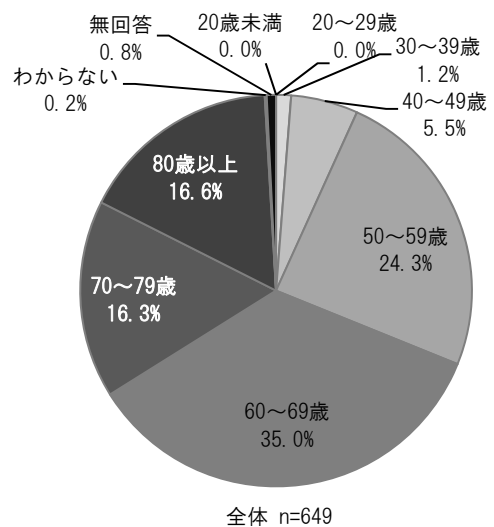
問3 要介護者からみた主な介護者



問4 主な介護者の性別



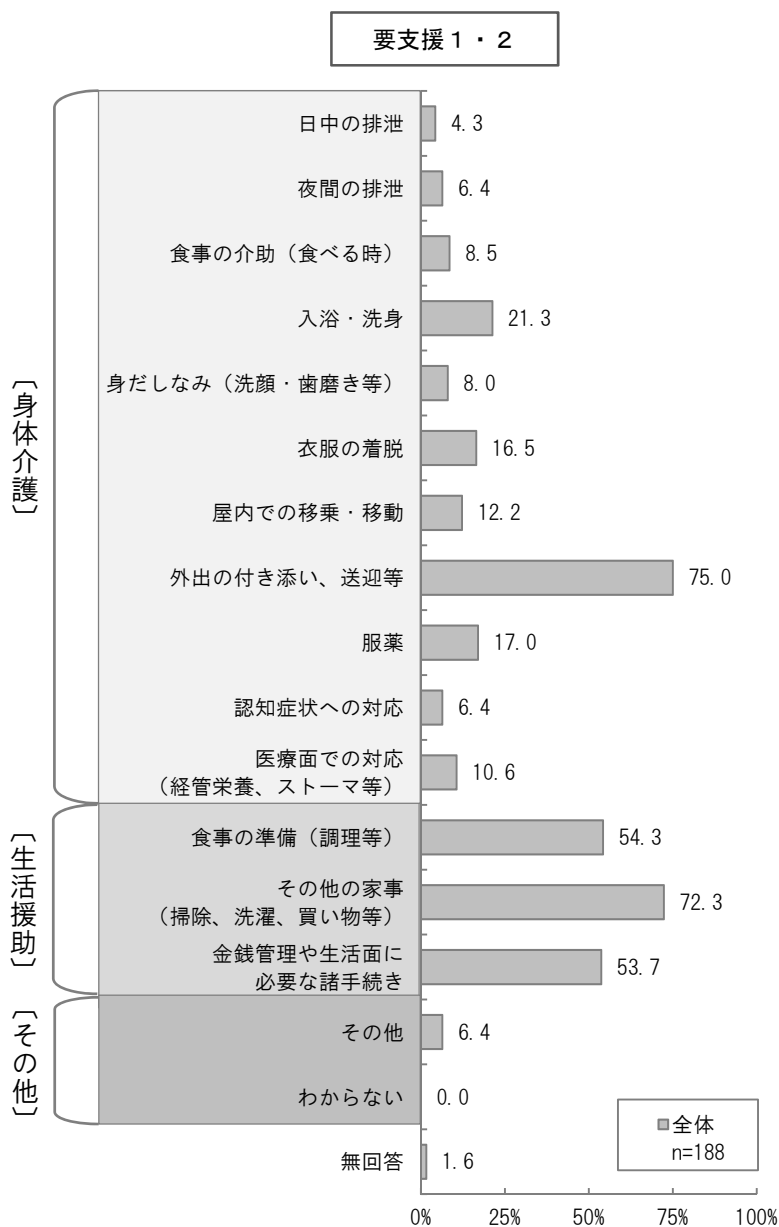
問5 主な介護者の年齢



(2) 主な介護者の介護実態

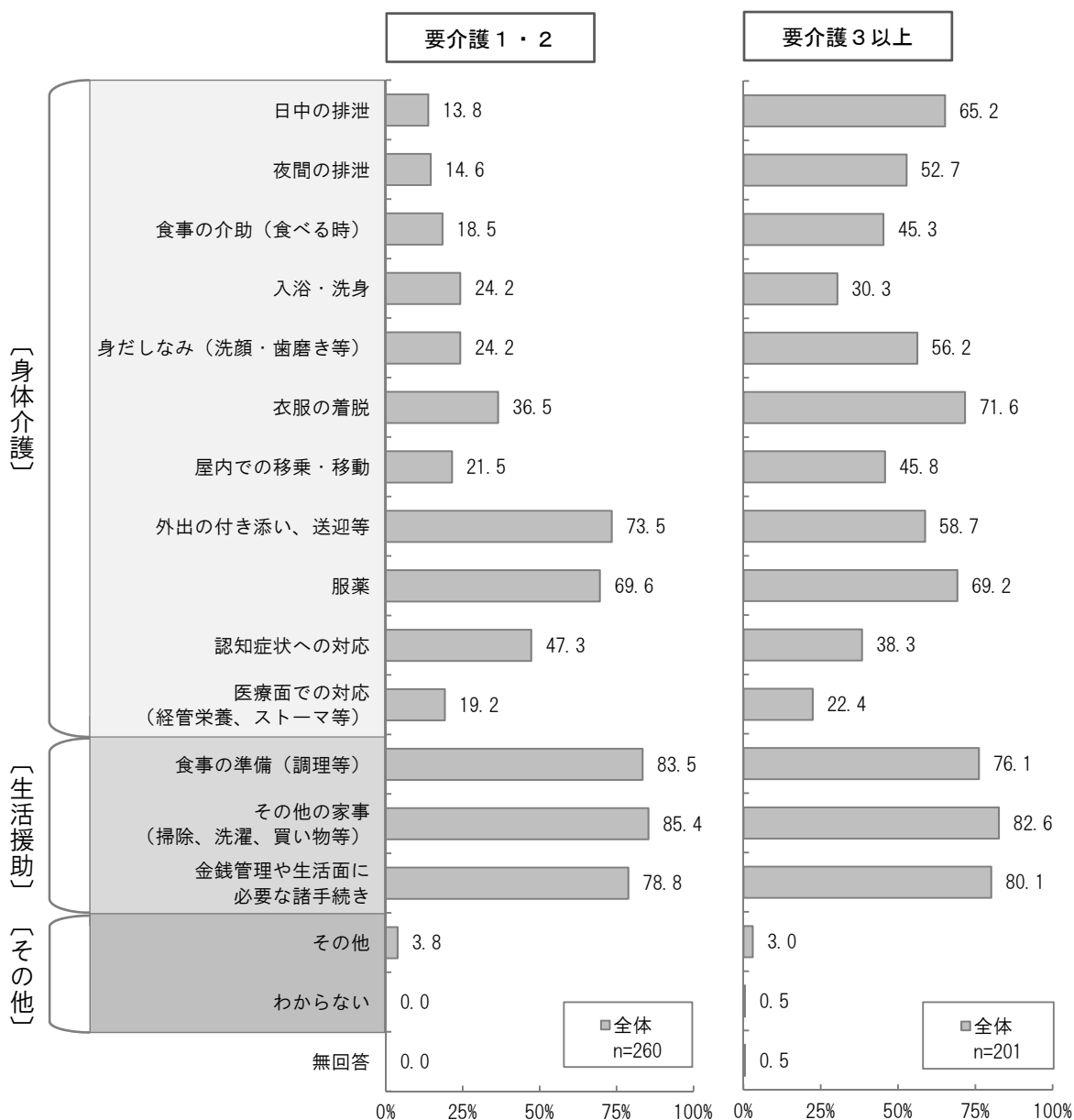
- 主な介護者の方が行っている介護をみると、要支援1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(75.0%)が高くなっています。
- 要支援1・2の方の生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(72.3%)、「食事の準備(調理等)」(54.3%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(53.7%)が高くなっています。

問6 主な介護者の方が行っている介護



○主な介護者が行っている介護をみると、要介護1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(73.5%)、「服薬」(69.6%)、要介護3以上の方では「衣服の着脱」(71.6%)、「服薬」(69.2%)、「日中の排泄」(65.2%)が高くなっています。

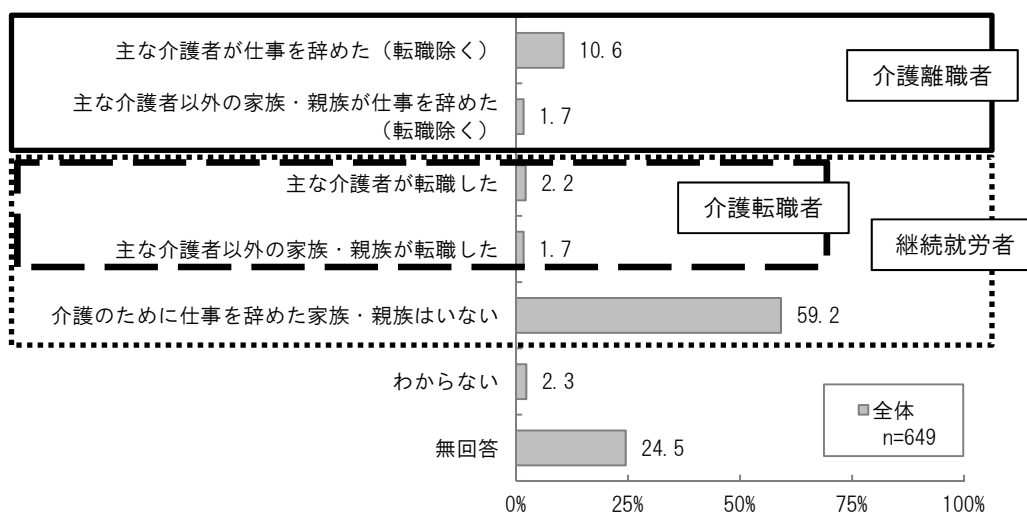
○要介護1・2の方の生活援助では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(85.4%)、「食事の準備(調理等)」(83.5%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(78.8%)、要介護3以上では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(82.6%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(80.1%)、「食事の準備(調理等)」(76.1%)の順に高くなっています。



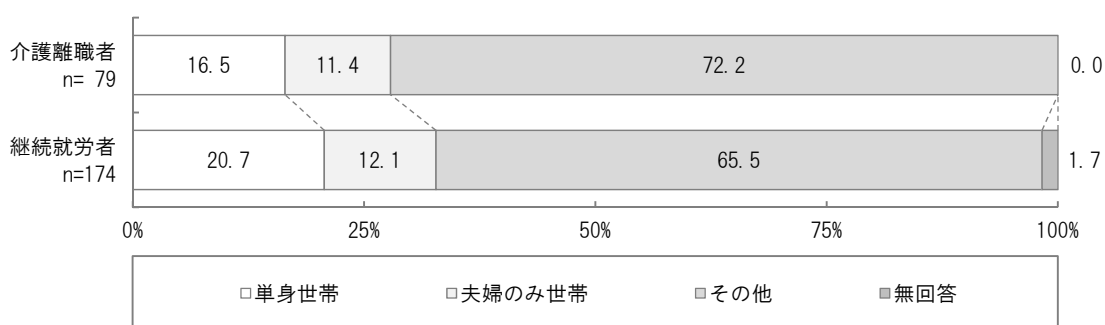
(3) 家族介護のために離職した状況

- 家族・親族が介護を理由に退職・転職したことの有無をみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（10.6%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.7%）を合わせた12.3%の方が離職し、また「主な介護者が転職した」（2.2%）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（1.7%）を合わせた3.9%の方が転職しています。
- 世帯類型では、介護離職者と継続就労者とも「その他」の世帯が72.2%・65.5%、次いで「単身世帯」が16.5%・20.7%、「夫婦のみ世帯」が11.4%・12.1%の順となっています。

問7 家族・親族が介護を理由に退職・転職したことの有無



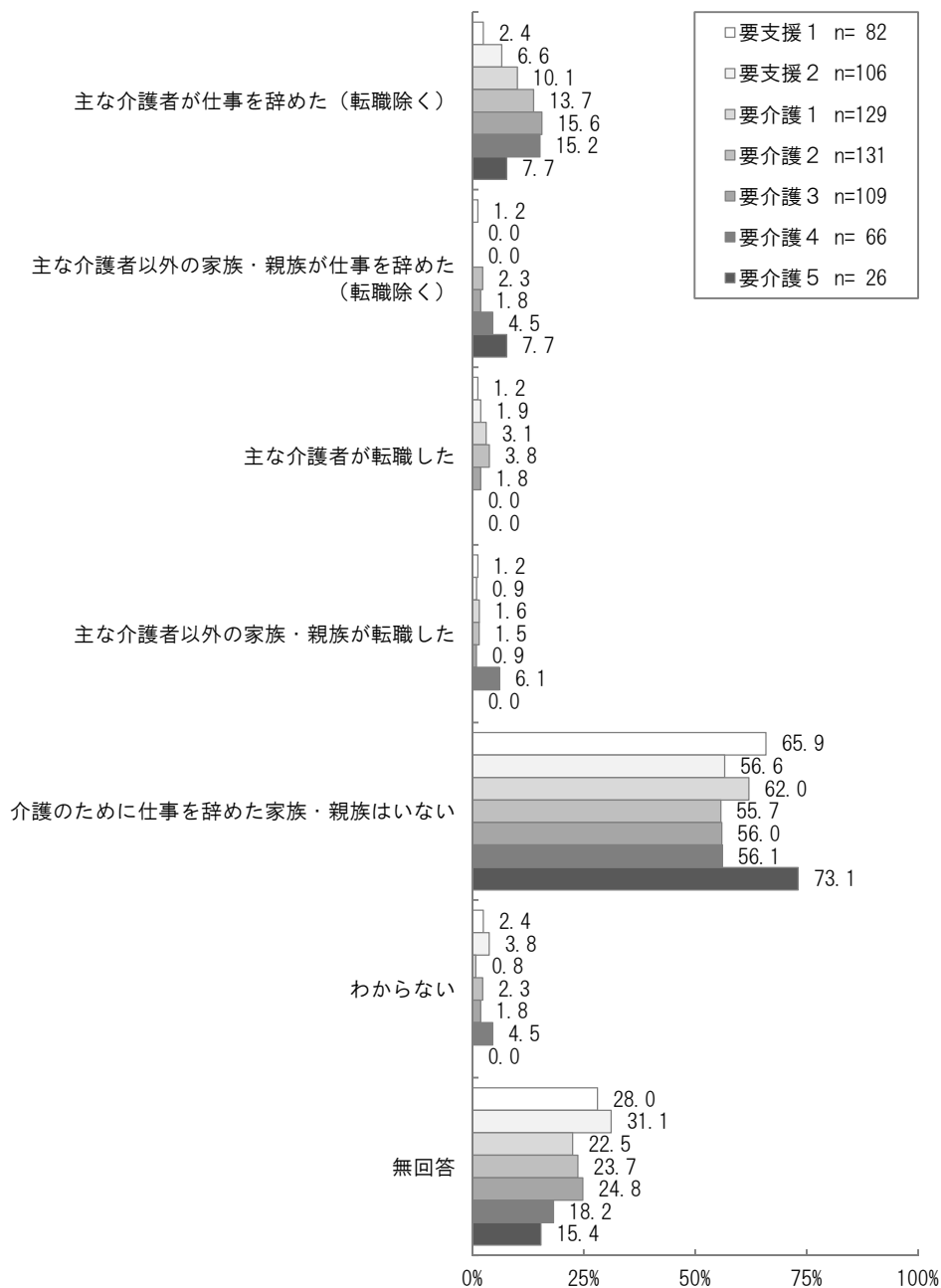
「介護離職者・継続就労者別」×「問1 該当する世帯類型」



※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

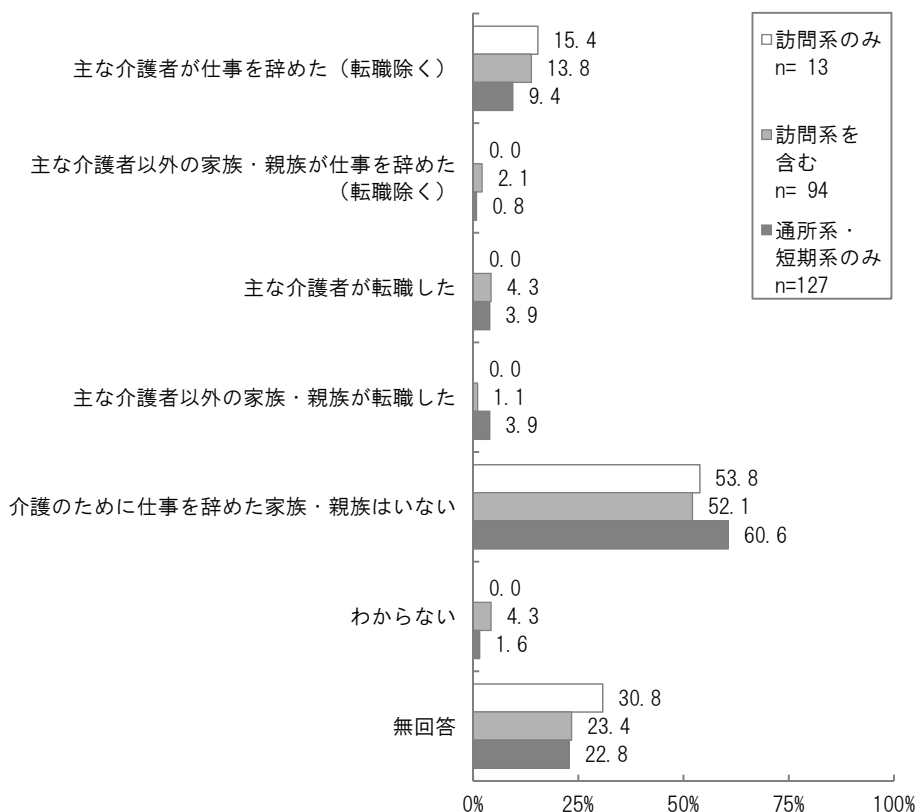
○要介護度別にみた家族・親族が介護を理由に退職・転職したことの有無では、要支援1・2、要介護1～5で「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(73.1～55.7%)が最も高くなっています。

「要介護度」×「問7 家族・親族が介護を理由に退職・転職したことの有無」



○サービス利用状況別にみた家族・親族が介護を理由に退職・転職したことの有無は、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」方の訪問系のみが53.8%、訪問系を含むサービス利用状況が52.1%、通所系・短期系のみが60.6%と最も高くなっています。

「サービス利用状況」×「問7 家族・親族が介護を理由に退職・転職したことの有無」



※認定データとの突合

3 支援・サービス・訪問診療の利用状況やニーズについて

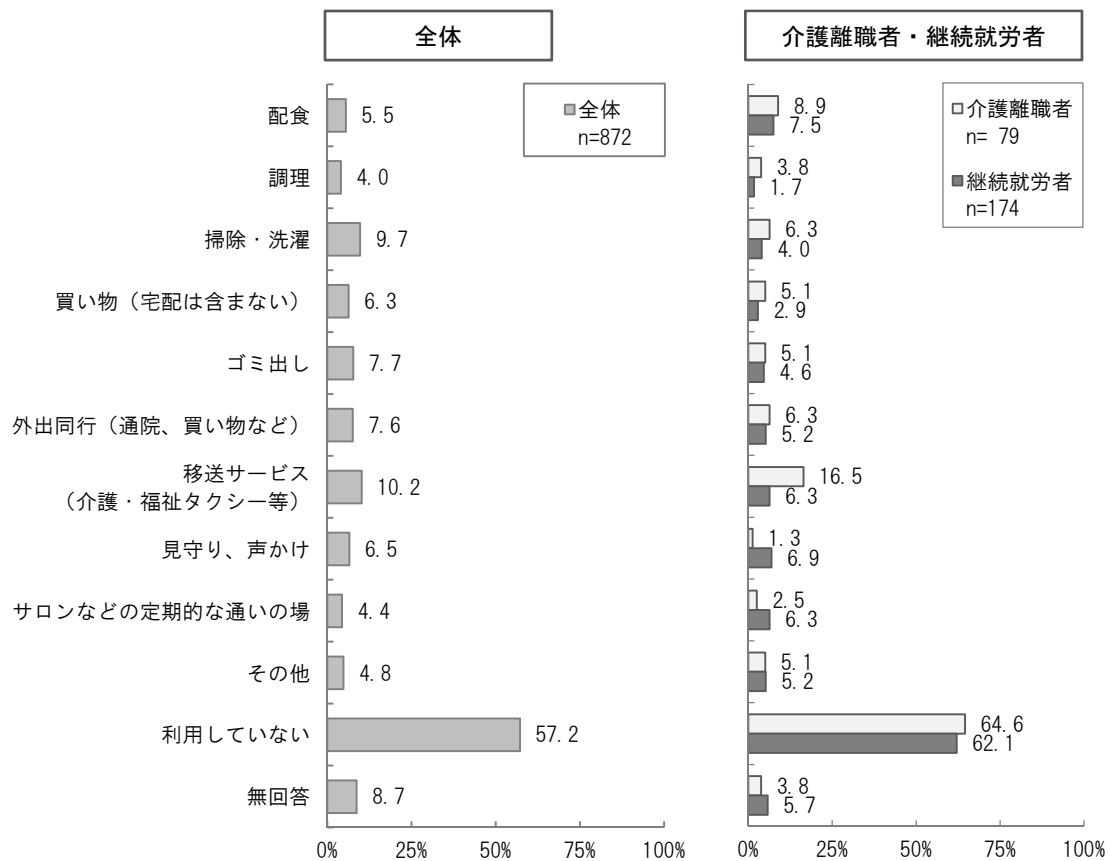
(1) 在宅生活を続けていくための必要な支援・サービス

○介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況をみると、全体では「利用していない」(57.2%)が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(10.2%)となっています。

○介護離職者と継続就労者ともに「利用していない」(64.6%・62.1%)が最も高く、次いで介護離職者は「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(16.5%)となっています。

○介護離職者と継続就労者との差異では「見守り・声かけ」「サロンなどの定期的な通いの場」において継続就労者の利用意向が上回っています。

問8 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況



※継続就労者：①問7で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

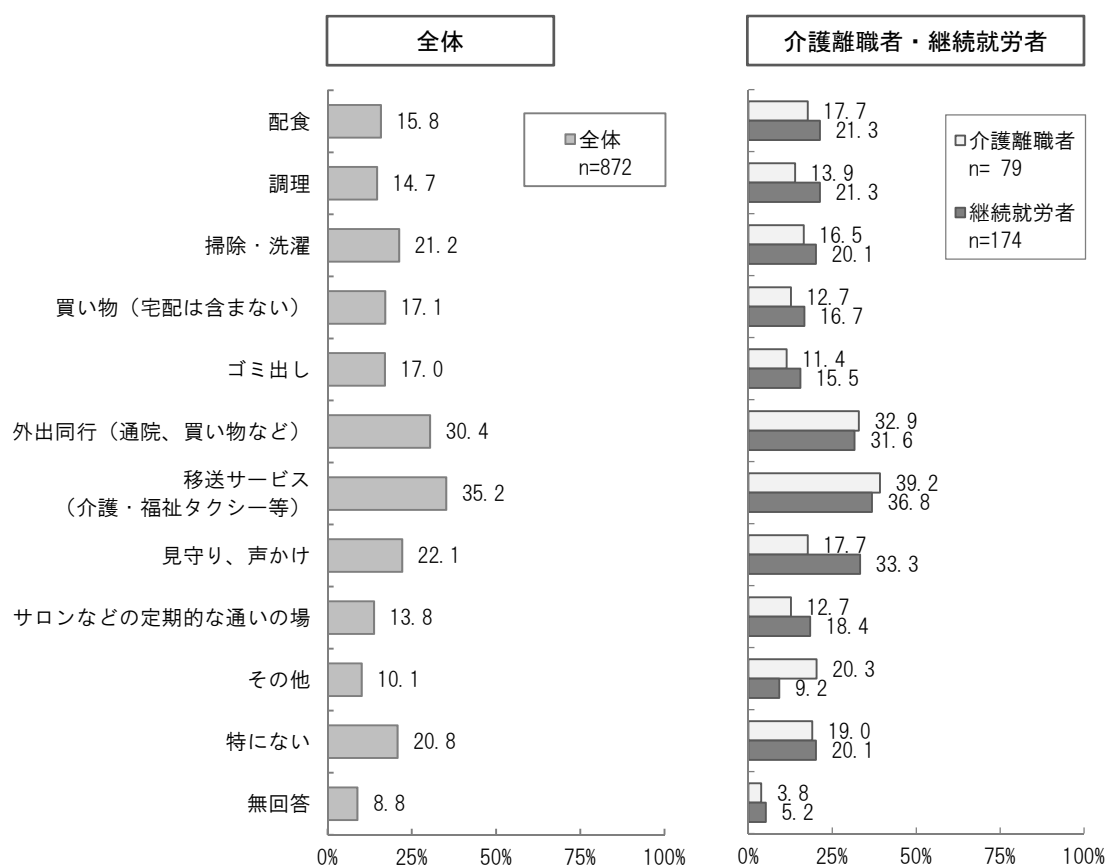
○在宅生活を続けていくために必要な支援・サービスの意向をみると、全体では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（35.2%）が最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（30.4%）、「見守り、声かけ」（22.1%）、「掃除・洗濯」（21.2%）の順となっています。

○介護離職者では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（39.2%）が最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（32.9%）、「配食」「見守り・声かけ」（各17.7%）、「掃除・洗濯」（16.5%）、「調理」（13.9%）、「買い物（宅配は含まない）」「サロンなどの定期的な通いの場」（各12.7%）、「ゴミ出し」（11.4%）の順となっています。

○一方、継続就労者は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（36.8%）、「見守り、声かけ」（33.3%）、「外出同行（通院、買い物など）」（31.6%）、「配食」「調理」（各21.3%）、「掃除・洗濯」（20.1%）、「サロンなどの定期的な通いの場」（18.4%）、「買い物（宅配は含まない）」（16.7%）、「ゴミ出し」（15.5%）の順となっています。

○介護離職者と継続就労者との差をみると、「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」以外のサービスは継続就労者の利用意向が介護離職者を上回っています。

問9 在宅生活を続けていくために必要な支援・サービス

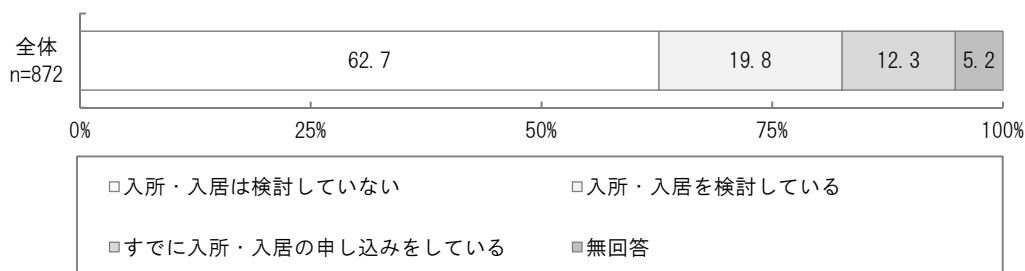


※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

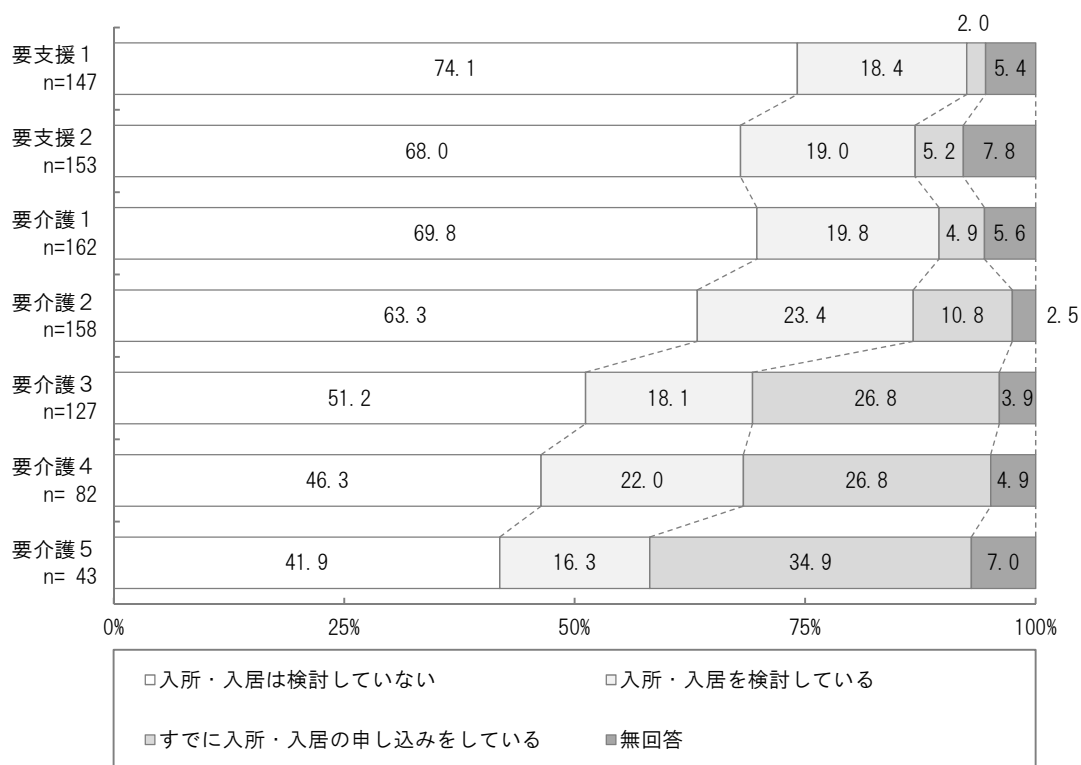
○施設等への入所・入居に関する検討状況をみると、全体では「入所・入居を検討していない」(62.7%)が最も高く、次いで「入所・入居を検討している」(19.8%)、「すでに入所・入居の申し込みをしている」(12.3%)の順となっています。

○要介護度別の検討状況では、要介護3以上で「すでに入所・入居の申し込みをしている」(34.9~26.8%)、「入所・入居を検討している」(22.0~16.3%)と合わせて4~5割の方が入所・入居予定または検討中となっています。

問 10 施設等への入所・入居を検討しているか



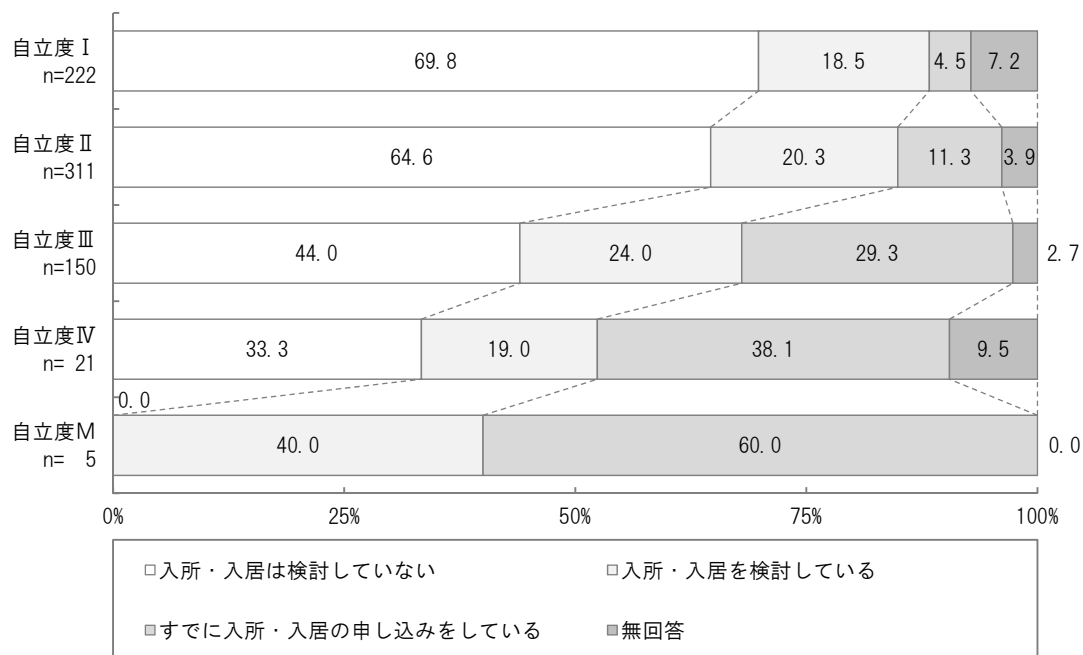
「要介護度」×「問 10 施設等への入所・入居に関する検討」



○認知症高齢者日常生活自立度別に施設等への入所・入居に関する検討状況をみると、自立度Ⅰ～Ⅲで「入所・入居は検討していない」(69.8～44.0%)、自立度Ⅳ・Mで「すでに入所・入居の申し込みをしている」(38.1%・60.0%) が最も高くなっています。

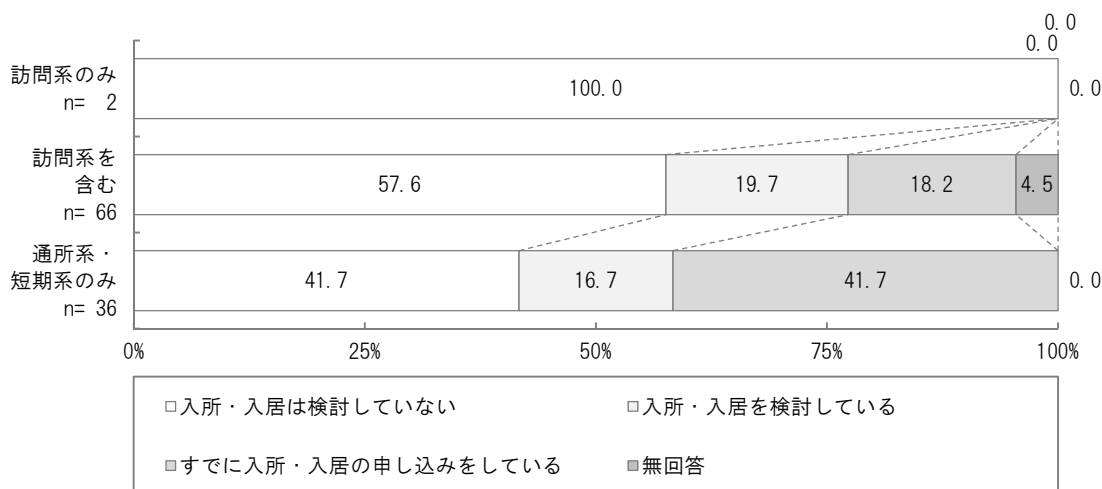
○サービス利用別にみた施設等への入所・入居の検討状況をみると、訪問系のみでは検討者がなく、訪問系含むでは「入所・入居を検討している」(19.7%)と「すでに入所・入居の申し込みをしている」(18.2%)と合わせて37.9%、通所系・短期系のみでは「入所・入居を検討している」(16.7%)と「すでに入所・入居の申し込みをしている」(41.7%)と合わせて58.4%の方が入所・入居予定または検討中となっています。

「認知症高齢者日常生活自立度」×「問10 施設等への入所・入居に関する検討」



※認定データとの突合

「サービス利用状況」×「問10 施設等への入所・入居に関する検討」(要介護度3以上)



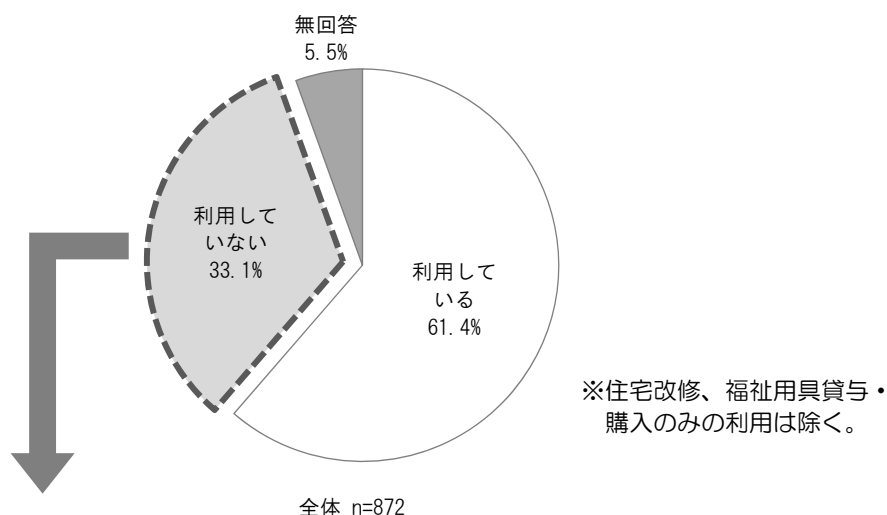
※認定データとの突合

(2) 介護保険サービスの利用状況

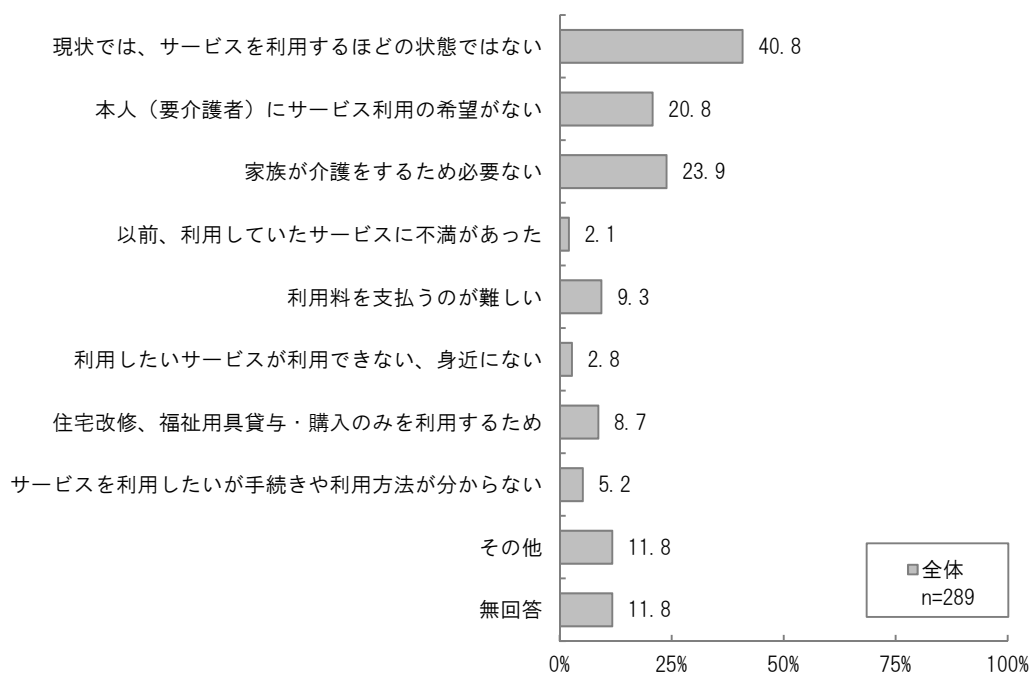
○介護保険サービスの利用の有無をみると、「利用していない」(33.1%)、「利用している」(61.4%)となっています。

○介護保険サービスを利用していない理由としては「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(40.8%)が最も高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」(23.9%)、「本人(要介護者)にサービス利用の希望がない」(20.8%)の順となっています。

問 13 介護保険サービスの利用の有無



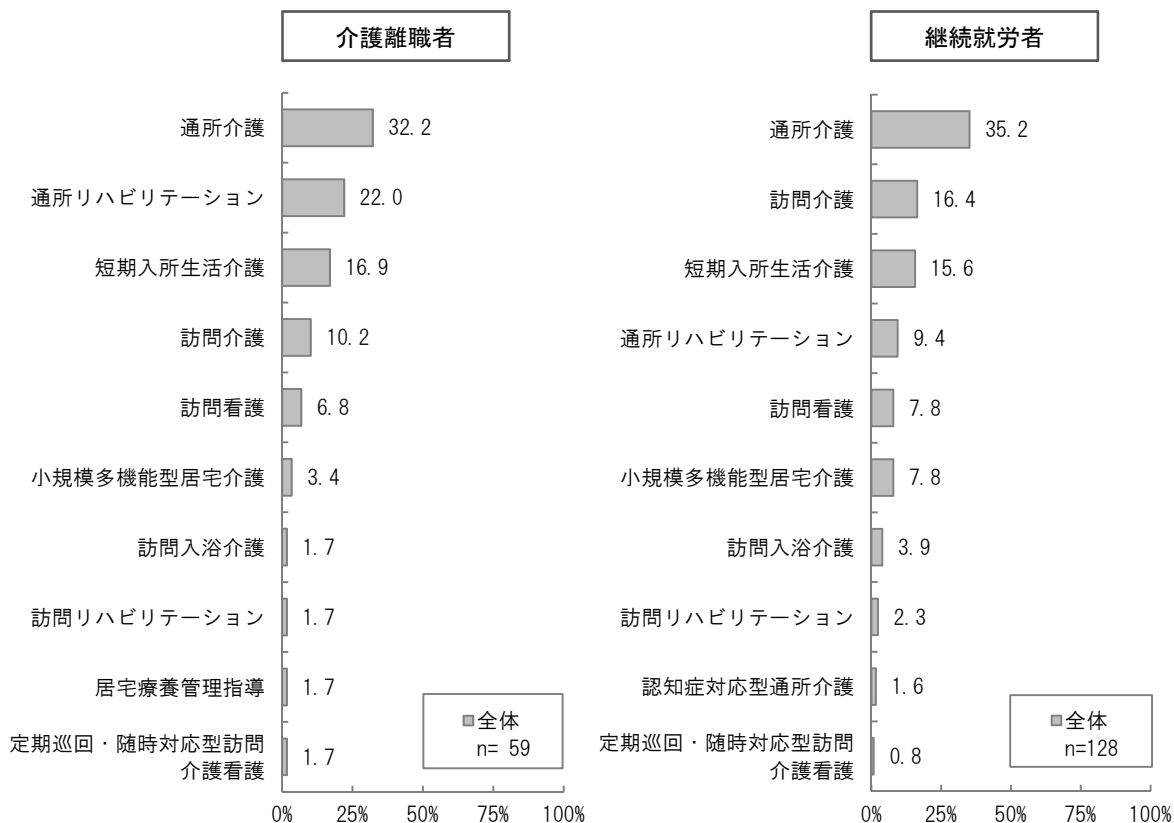
問 13-1 介護保険サービスを利用していない理由



○介護離職者の介護保険サービス利用者では「通所介護」(32.2%)が最も高く、次いで「通所リハビリテーション」(22.0%)、「短期入所生活介護」(16.9%)、「訪問介護」(10.2%)の順となっています。

○一方、継続就労者では「通所介護」(35.2%)が最も高く、次いで「訪問介護」(16.4%)、「短期入所療養介護」(15.6%)の順となっています。

「介護離職者・継続就労者別」×「介護保険サービス利用状況」(上位10位)



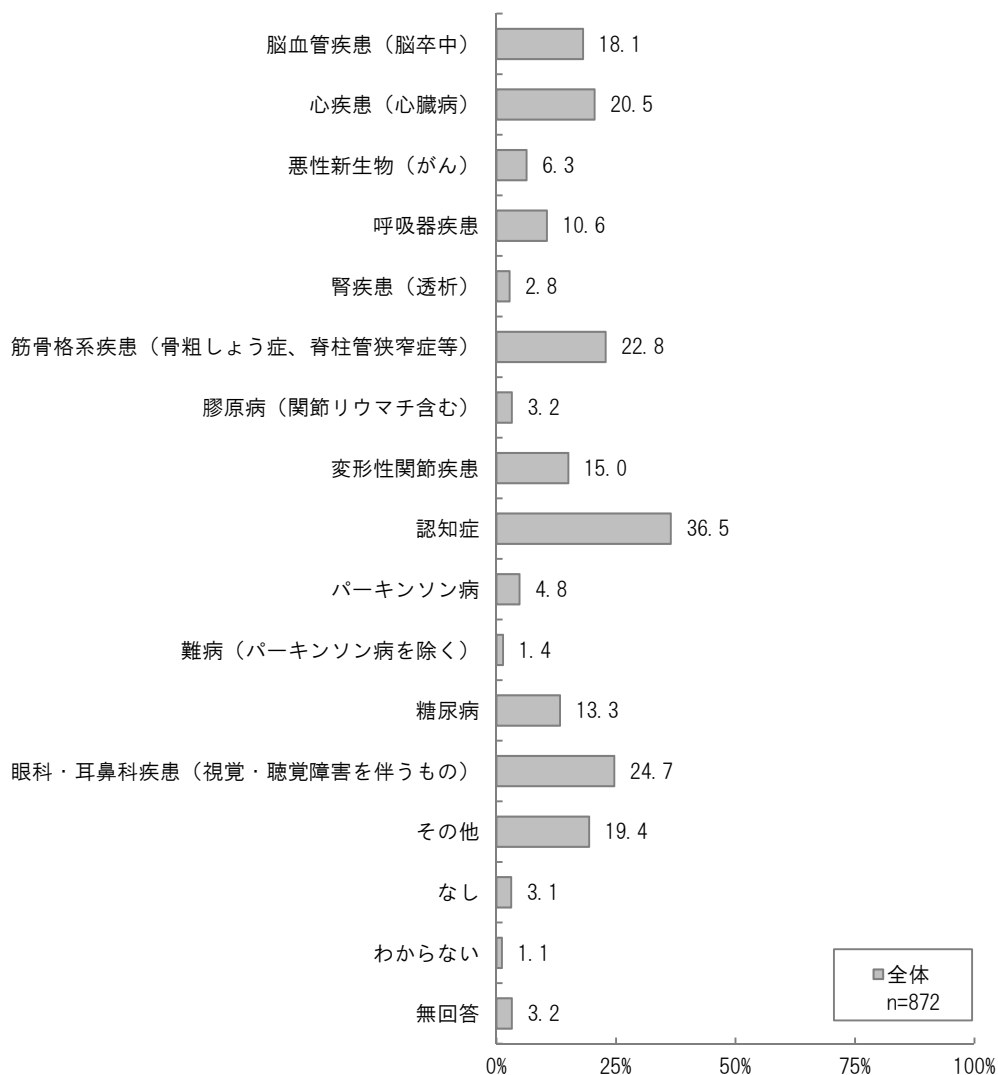
※認定データとの突合

※継続就労者：①問7で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

(3) 訪問診療の利用状況

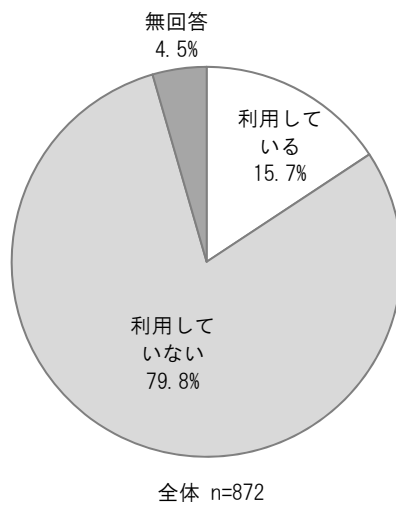
○要介護者が現在抱えている傷病をみると、「認知症」(36.5%)が最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(24.7%)、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(22.8%)、「心疾患(心臓病)」(20.5%)、「脳血管疾患(脳卒中)」(18.1%)、「変形性関節疾患」(15.0%)、「糖尿病」(13.3%)、「呼吸器疾患」(10.6%)の順となっています。

問 11 要介護者が現在抱えている傷病名



○訪問診療の利用状況をみると、「利用している」方が15.7%となっています。

問 12 訪問診療の利用の有無

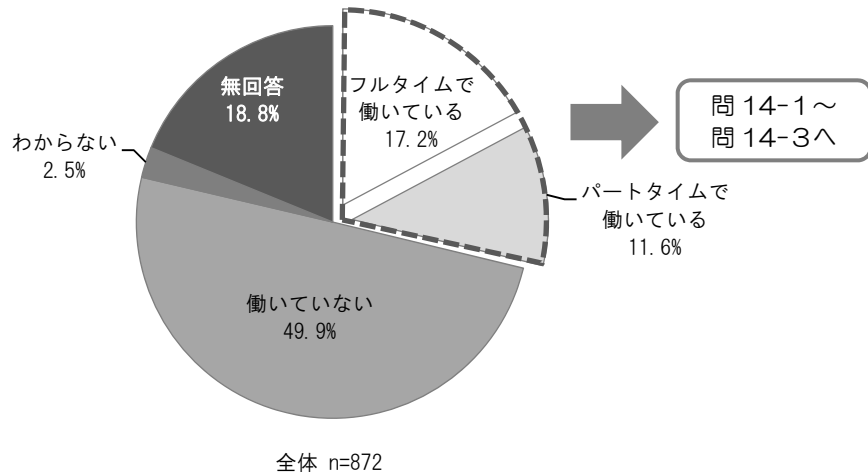


4 主な介護者の就労状況について

(1) 主な介護者の勤務形態

○主な介護者の現在の勤務形態は「フルタイムで働いている」(17.2%)、「パートタイムで働いている」(11.6%)と28.8%の方が働いており、「働いていない」方は49.9%となっています。

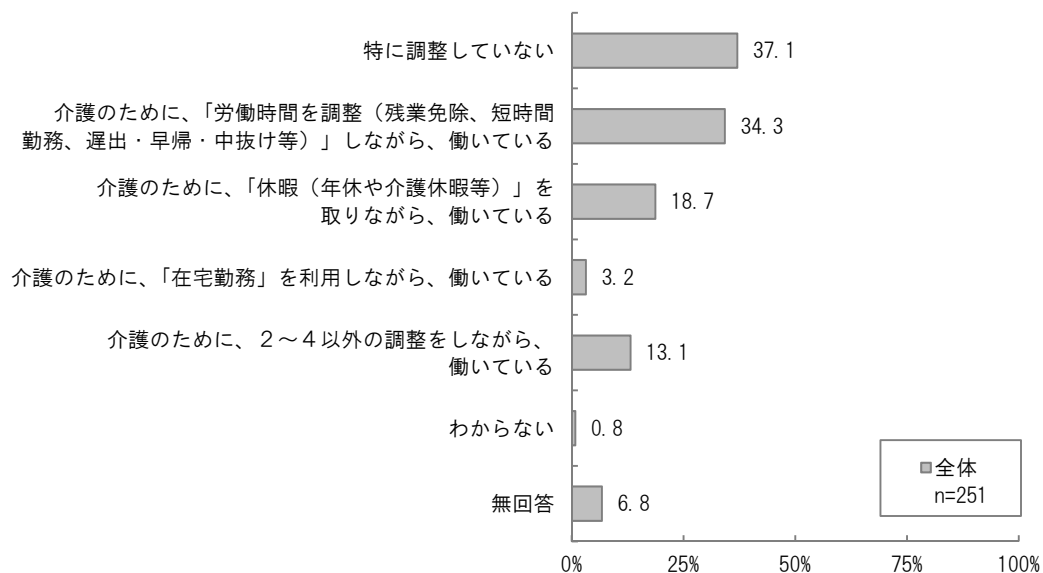
問 14 主な介護者の現在の勤務形態



(2) 継続就労者（フルタイム・パートタイム）の就労実態と意向

○介護のために働き方を調整しているかをみると、働き方を調整している方は「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」(34.3%)、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」(18.7%)、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」(13.1%)の順となっています。一方、「特に調整していない」方は37.1%となっています。

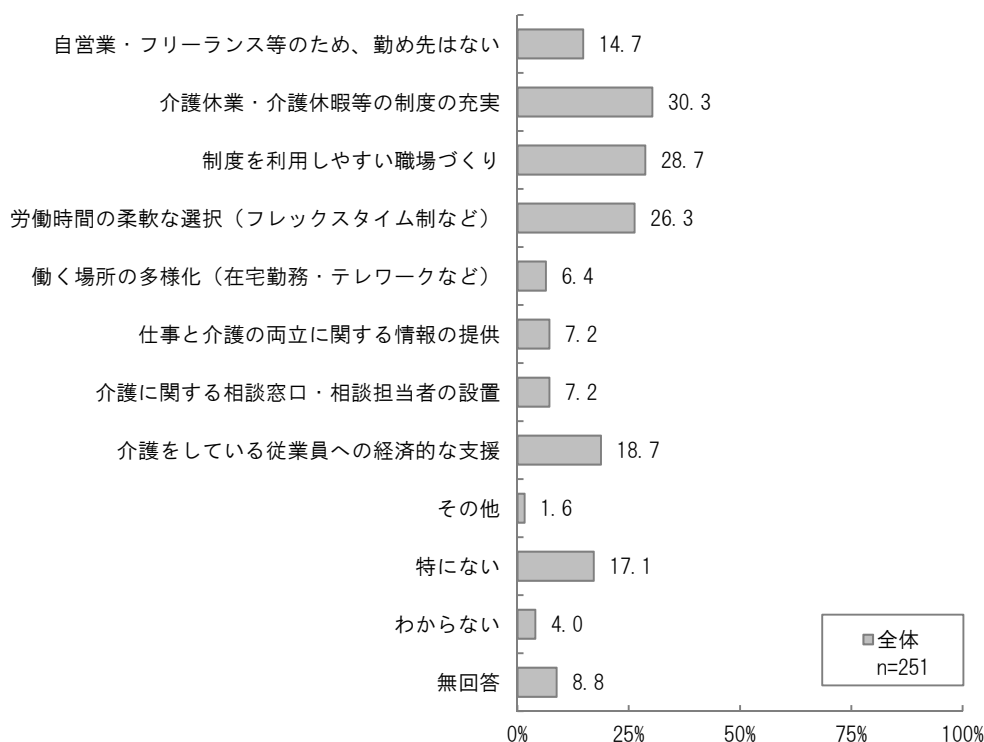
問 14-1 働き方を調整しているか



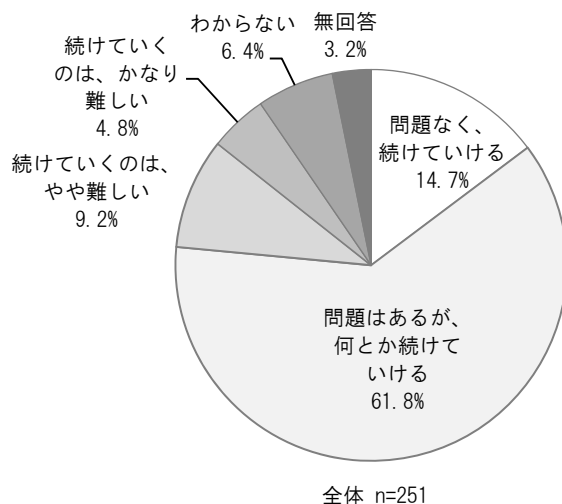
○仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援をみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(30.3%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(28.7%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(26.3%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(18.7%)、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」(14.7%)の順に挙げています。

○今後も働きながら介護を続けていけそうかに対しては「問題はあるが、何とか続けていける」(61.8%)が最も高く、次いで「問題なく、続けていける」(14.7%)の順となり、「続けていくのは、やや難しい」(9.2%)と「続けていくのは、かなり難しい」(4.8%)を合わせた14.0%の方が今後の継続は困難と回答しています。

問 14-2 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援



問 14-3 今後も働きながら介護を続けていけそうか



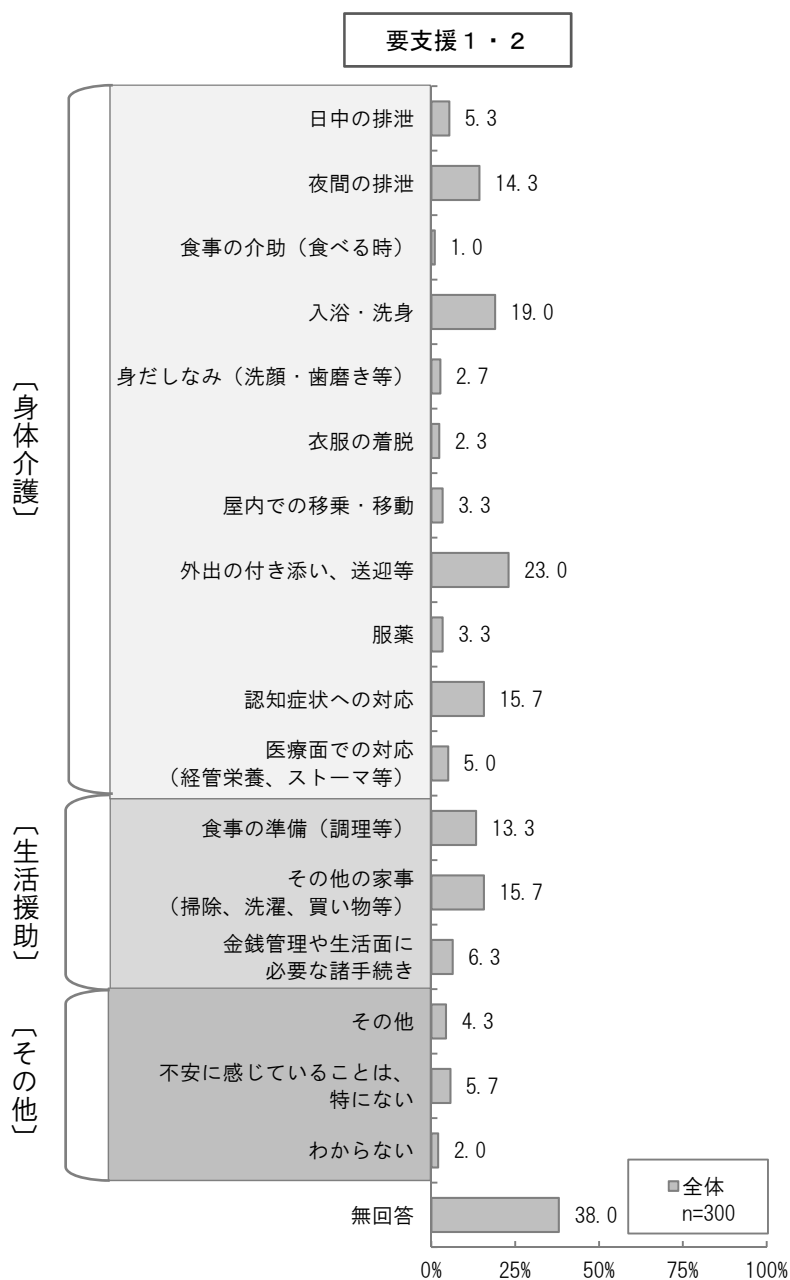
5 介護生活を続ける際の不安や困りごと

(1) 主な介護者が不安に感じる介護の内容

○主な介護者が不安に感じる介護内容をみると、要支援1・2の方の身体介護では「外出の付き添い、送迎等」(23.0%)、「入浴・洗身」(19.0%)、「認知症状への対応」(15.7%)、「夜間の排泄」(14.3%)の順となっています。

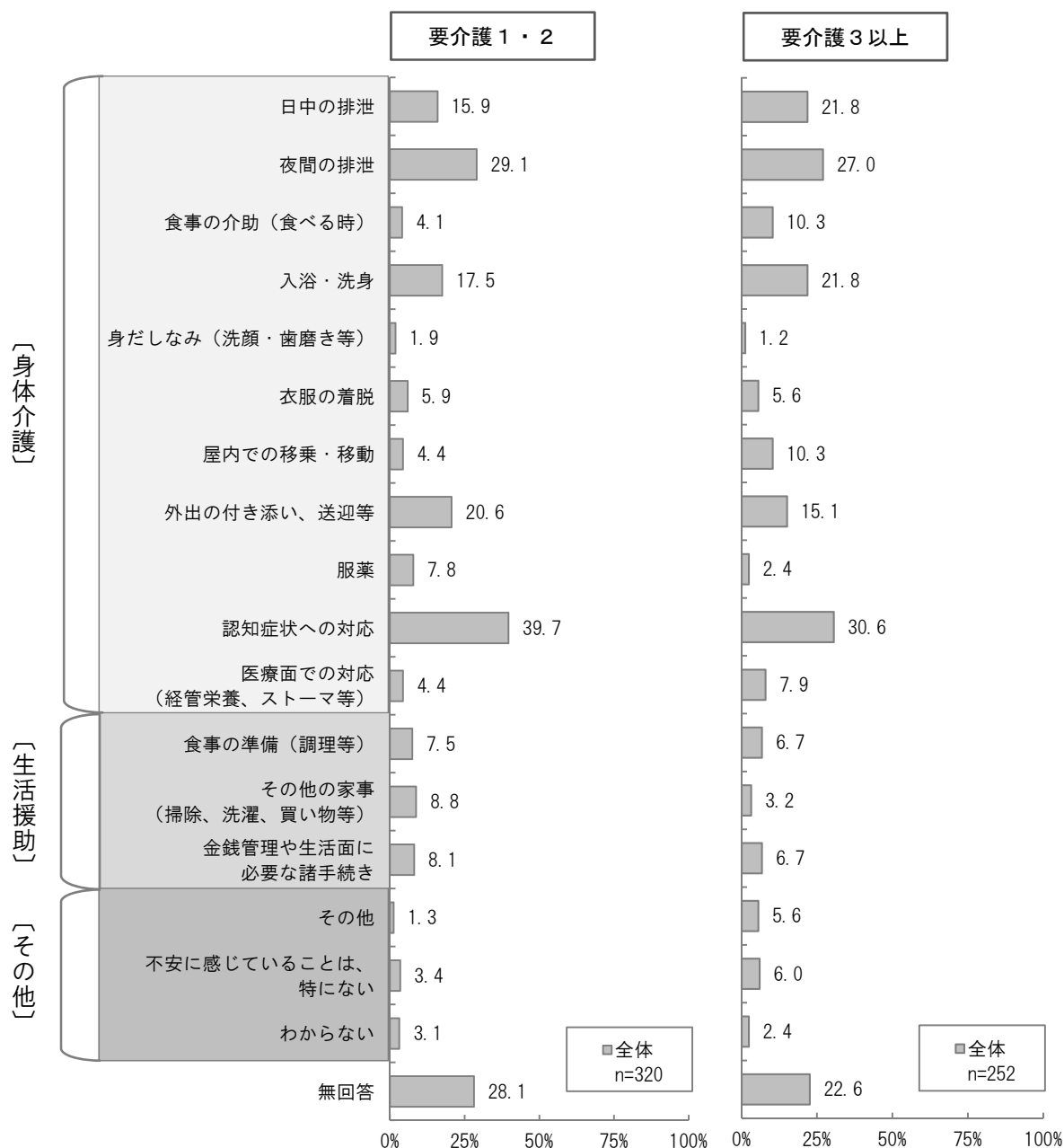
○生活援助では要介護1・2の方が「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(15.7%)、「食事の準備(調理等)」(13.3%)に不安を感じています。

問 15 主な介護者が不安に感じる介護



○主な介護者が不安を感じる介護内容をみると、要介護1・2の方の身体介護では「認知症状への対応」(39.7%)、「夜間の排泄」(29.1%)、「外出の付き添い、送迎等」(20.6%)、「入浴・洗身」(17.5%)、「日中の排泄」(15.9%)の順、また要介護3以上の方では「認知症状への対応」(30.6%)、「夜間の排泄」(27.0%)、「日中の排泄」「入浴・洗身」(各21.8%)、「外出の付き添い、送迎等」(15.1%)、「屋内での移乗・移動」(10.3%)の順となっています。

○生活援助での不安を感じる介護は、全ての要介護度で10%未満と低くなっています。



6 介護離職の要因について

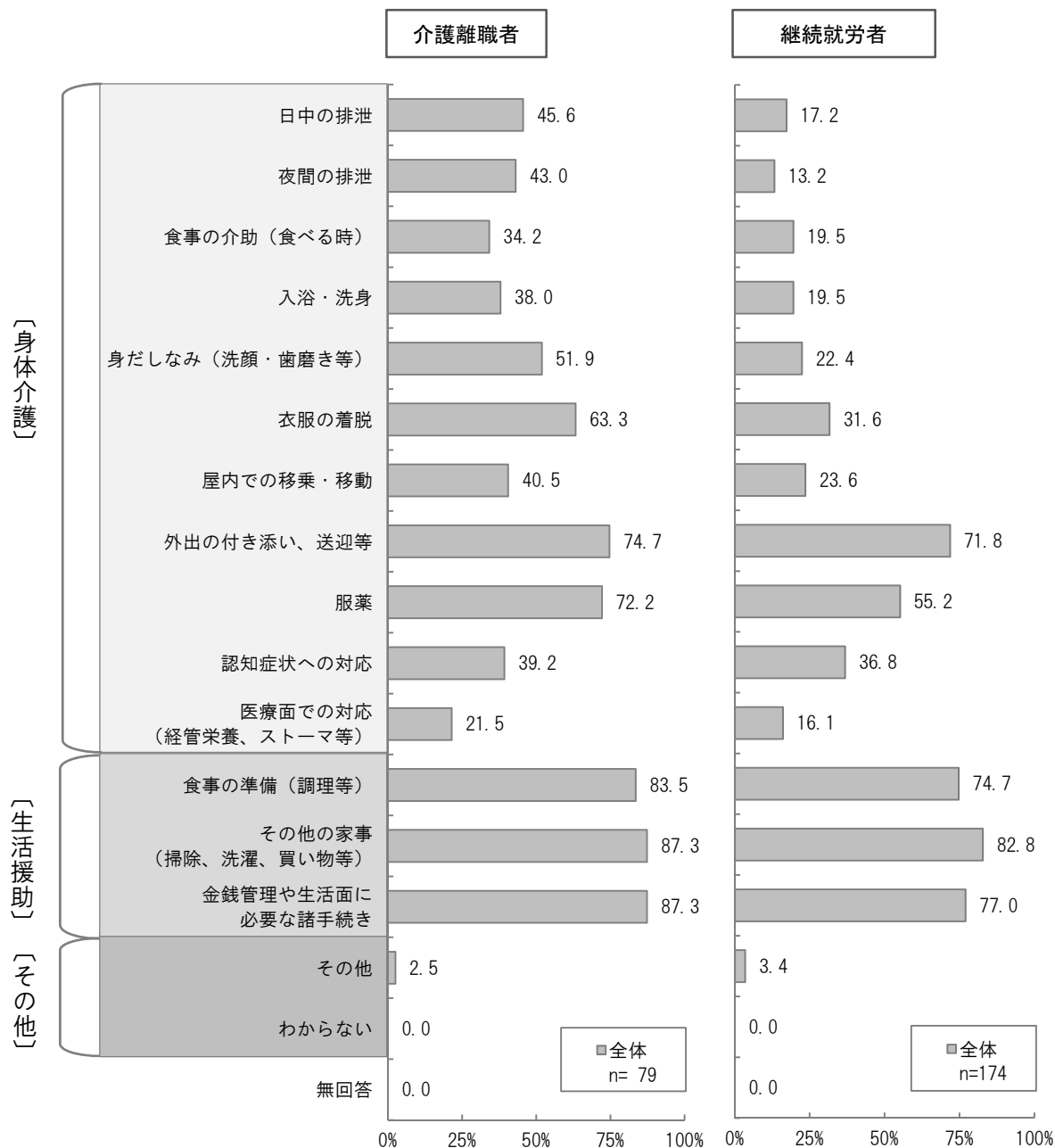
主な介護者の介護離職に関する要因を調べるために、①主な介護者の介護環境、②主な介護者の就労環境、③要介護者の様態と介護実態、④介護給付サービス等の利用状況等について介護離職者と就労者との差異を比較検討しました。

(1) 主な介護者を取り巻く介護環境等

① 介護者が行っている介護の内容

- 身体介護では介護離職者が「外出の付き添い、送迎等」(74.7%)、「服薬」(72.2%)、「衣服の着脱」(63.3%)、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」(51.9%)、継続就労者は「外出の付き添い、送迎等」(71.8%)、「服薬」(55.2%)の順となっています。
- 生活援助は介護離職者が「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(各87.3%)、「食事の準備(調理等)」(83.5%)、継続就労者は「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(82.8%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(77.0%)、「食事の準備(調理等)」(74.7%)の順となっています。

「介護離職者・継続就労者別」×「問6 主な介護者の方が行っている介護」

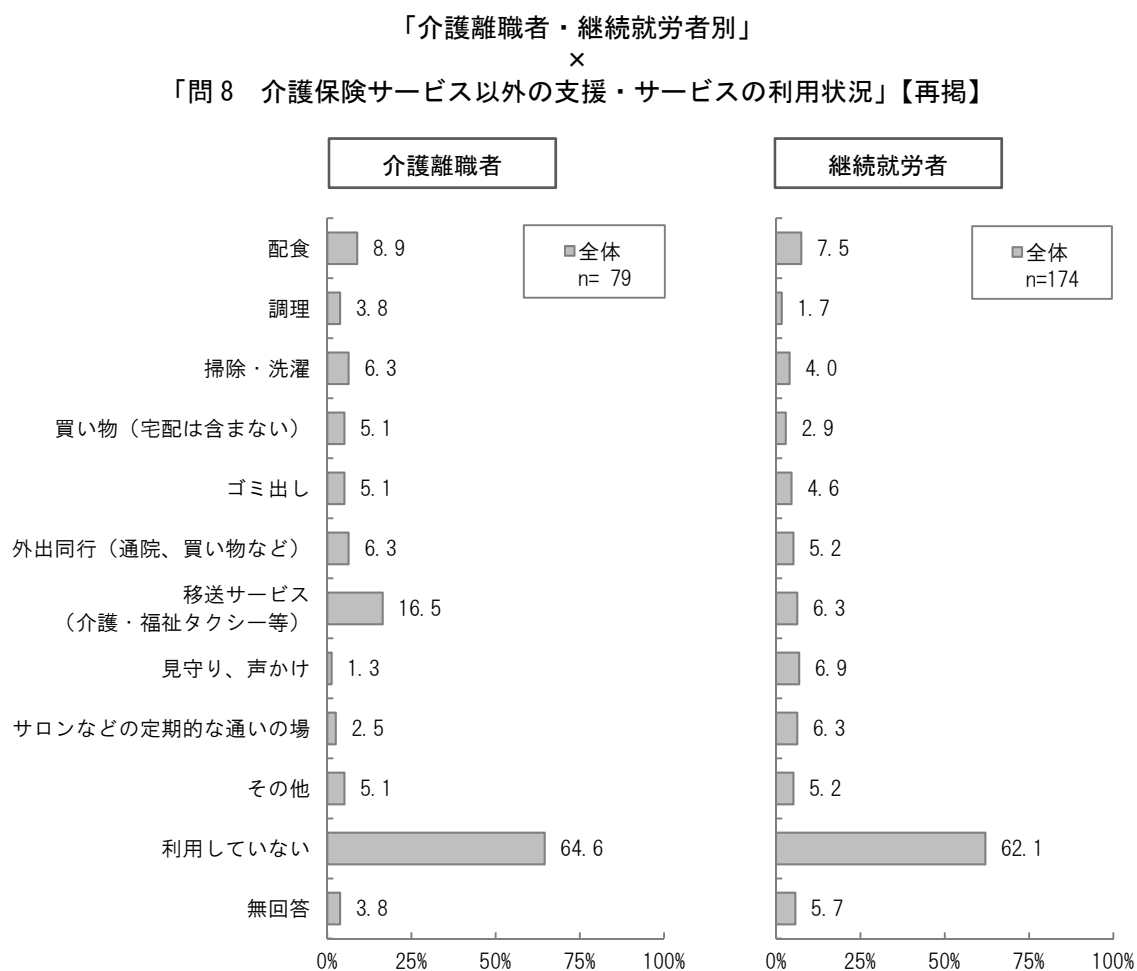


※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

② 要介護者が利用している介護給付サービス以外の支援・サービス

○介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況をみると、介護離職者では「利用していない」(64.6%)が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(16.5%)の順となっています。

○一方、継続就労者では、「利用していない」(62.1%)が最も高く、次いで「配食」(7.5%)の順となっています。

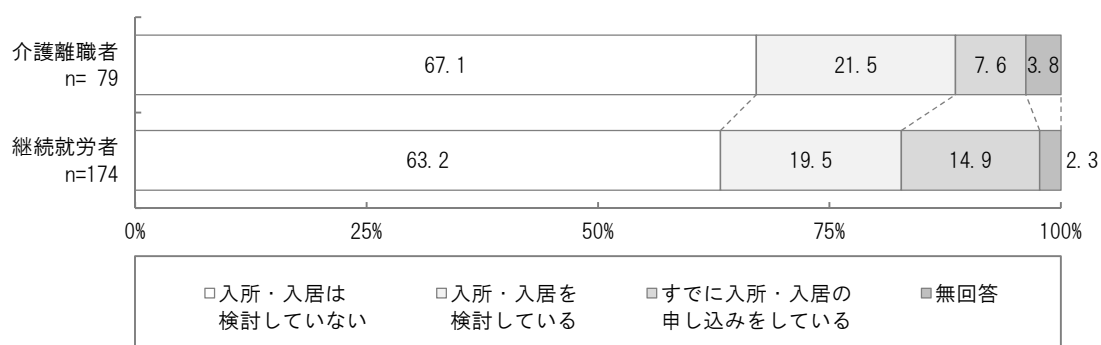


※継続就労者：①問7で「転職した」と回答(「3」「4」を選択)した方、
②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

③ 施設等への入所・入居の検討

- 施設等への入所・入居に関する検討状況をみると、介護離職者では「入所・入居を検討している」(21.5%)、「すでに入所・入居の申し込みをしている」(7.6%)となっています。
- 一方、継続就労者では「入所・入居を検討している」(19.5%)、「すでに入所・入居の申し込みをしている」(14.9%)となっています。
- 介護離職者と継続就労者との差をみると、介護離職者では「すでに入所・入居の申し込みをしている」で継続就労者を下回っています。

「介護離職者・継続就労者別」×「問10 施設等への入所・入居を検討しているか」



※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

(2) 就業中の主な介護者に関する就労環境

ここでは、就労している主な介護者を介護のために転職をした介護転職者と継続就労者に細分化し、比較検討しています。

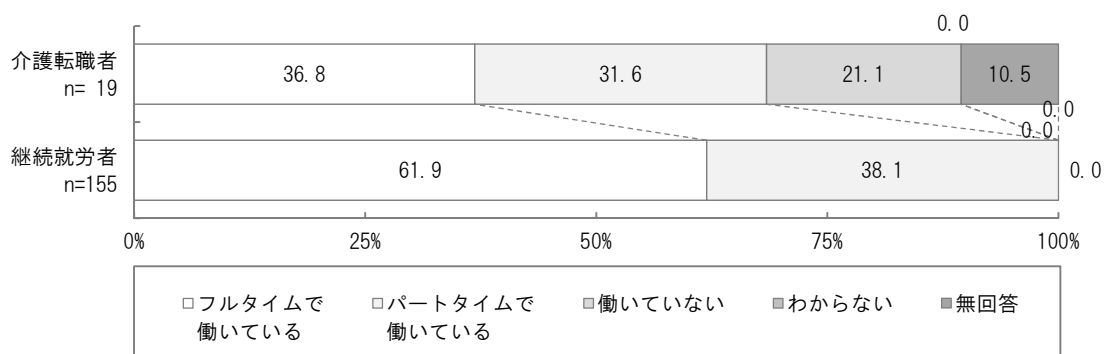
① 現在の勤務形態

○介護転職者の現在の勤務形態は、「フルタイムで働いている」(36.8%)、「パートタイムで働いている」(31.6%)となっています。また「働いていない」方は21.1%となっています。

○一方、継続就労者では、「フルタイムで働いている」(61.9%)、「パートタイムで働いている」(38.1%)となっています。

○介護転職者と継続就労者との差をみると、介護転職者は「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」ともに継続就労者を下回っています。

「介護転職者・継続就労者別」×「問14 主な介護者の現在の勤務形態」



※継続就労者：問7で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方

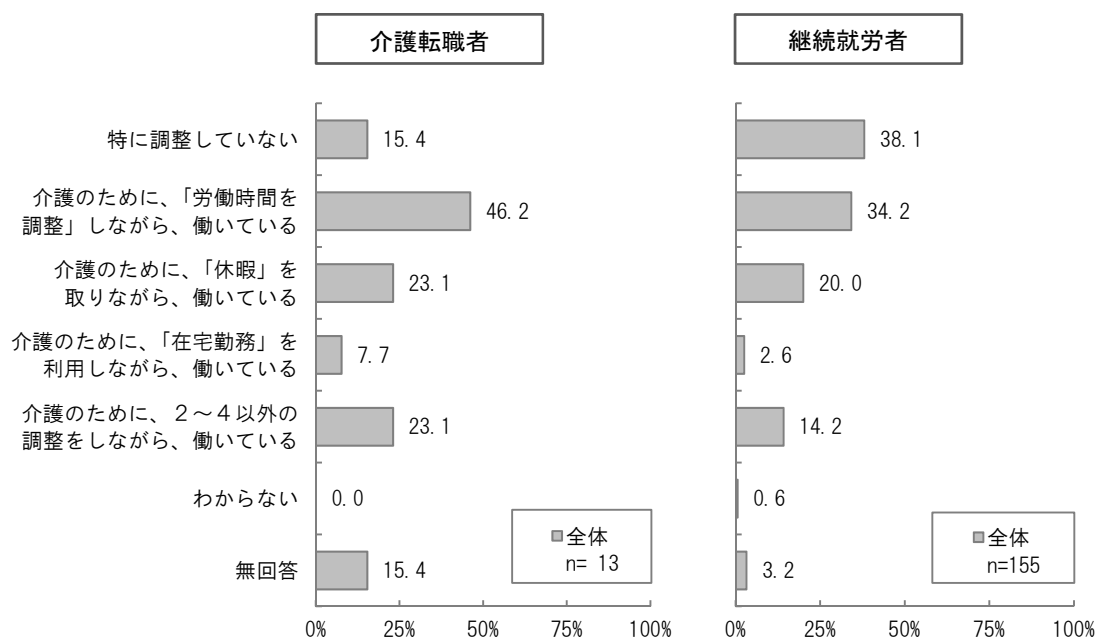
② 介護のために働き方の調整等

○介護転職者が介護のために働き方を調整しているかをみると、「介護のために、『労働時間』を調整しながら、働いている」(46.2%)が最も高く、次いで「介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」(各23.1%)、「特に調整していない」(15.4%)の順となっています。

○一方、継続就労者では「特に調整していない」(38.1%)が最も高く、次いで「介護のために、『労働時間』を調整しながら、働いている」(34.2%)、「介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」(20.0%)、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」(14.2%)の順となっています。

○介護転職者と継続就労者との差をみると、介護転職者は「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」方が継続就労者を12.0ポイント上回っています。

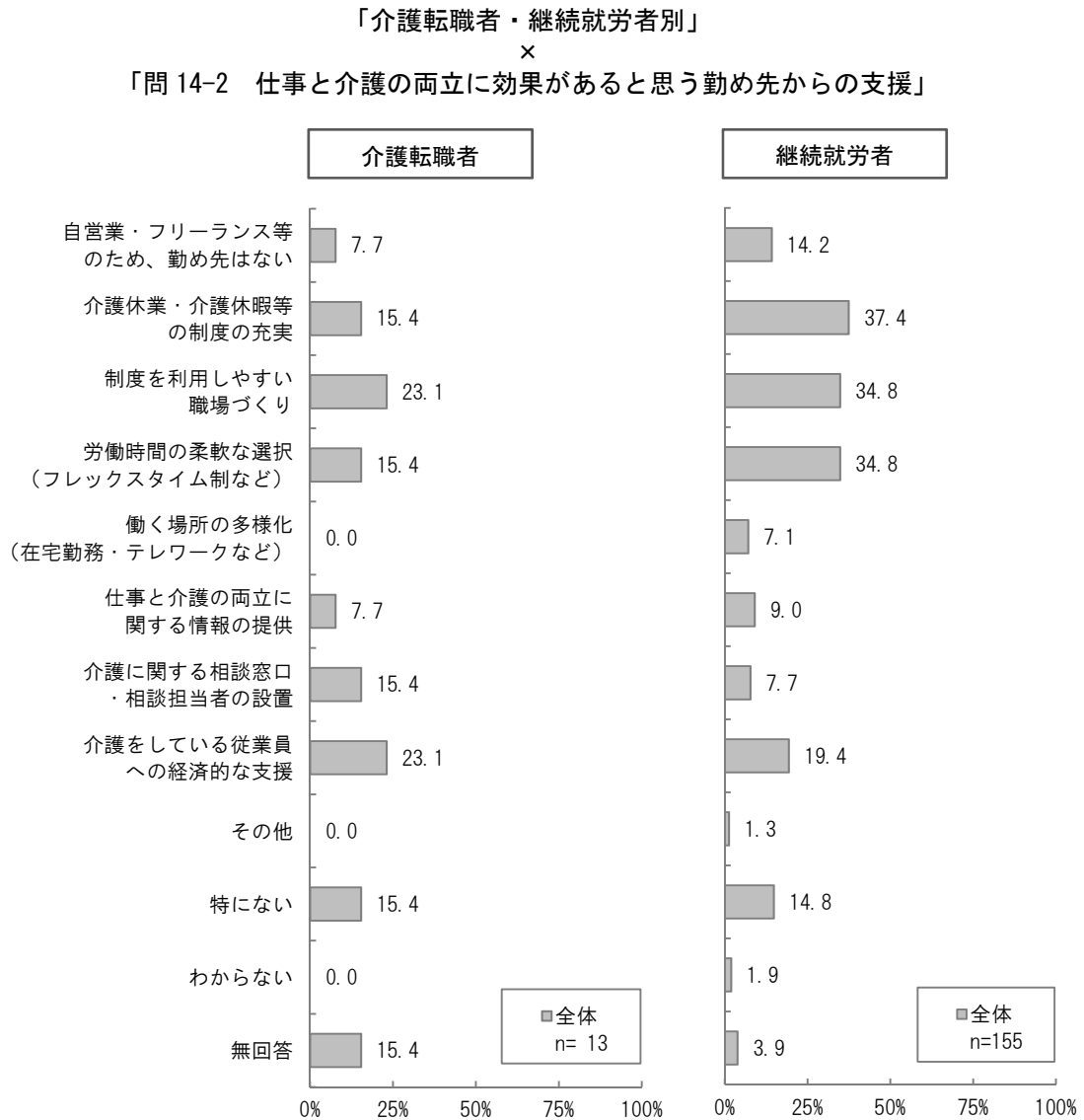
「介護転職者・継続就労者別」×「問 14-1 働き方を調整しているか」



※継続就労者：問7で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方

③ 仕事と介護の両立に効果的な職場の支援内容

- 介護転職者が仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援についてみると、「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」(各23.1%)が最も高くなっています。
- 継続就労者が仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援についてみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(37.4%)が最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択」(各34.8%)の順となっています。



※継続就労者：問7で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問 14 で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方

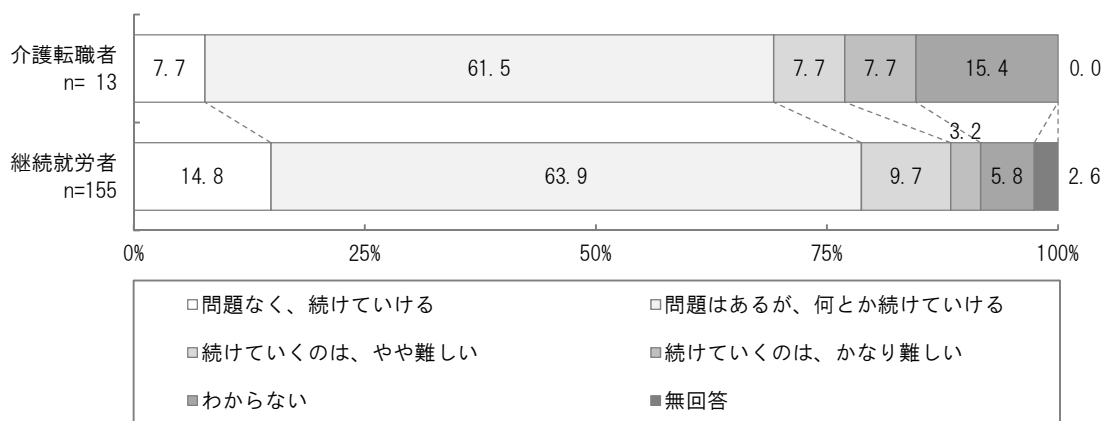
④ 仕事と介護の両立に関して継続する意向

○介護転職者における今後の就労継続に関する意向をみると、「問題はあるが、何とか続けていける」(61.5%)が最も高くなっています。

○一方、継続就労者では「問題はあるが、何とか続けている」(63.9%)が最も高く、次いで「問題なく、続けていける」(14.8%)となっています。

○介護転職者と継続就労者との差をみると、介護転職者は「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」方が継続就労者を2.5^{ポイント}上回っています。

「介護転職者・継続就労者別」×「問14-3 今後も働きながら介護を続けていけそうか」

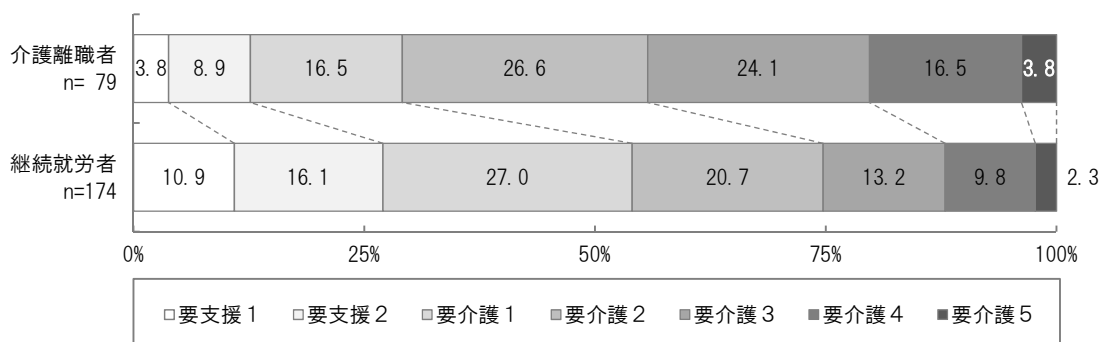


※継続就労者：問7で「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方

(3) 要介護者の様態と介護実態

- 介護離職者が介護している方の要介護度をみると、「要支援1～要介護2」の方が55.8%、「要介護3以上」の方が44.4%となっています。
- 一方、継続就労者が介護している方では「要支援1～要介護2」の方が74.7%、「要介護3以上」の方が25.3%となっています。
- 介護離職者と継続就労者との差をみると、介護離職者は「要介護3以上」の方が継続就労者を19.1^{ポイント}上回り、介護負担が大きいことがうかがえます。

「介護離職者・継続就労者別」×要介護者の「要介護度」



※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

(4) 介護給付サービス等の利用状況

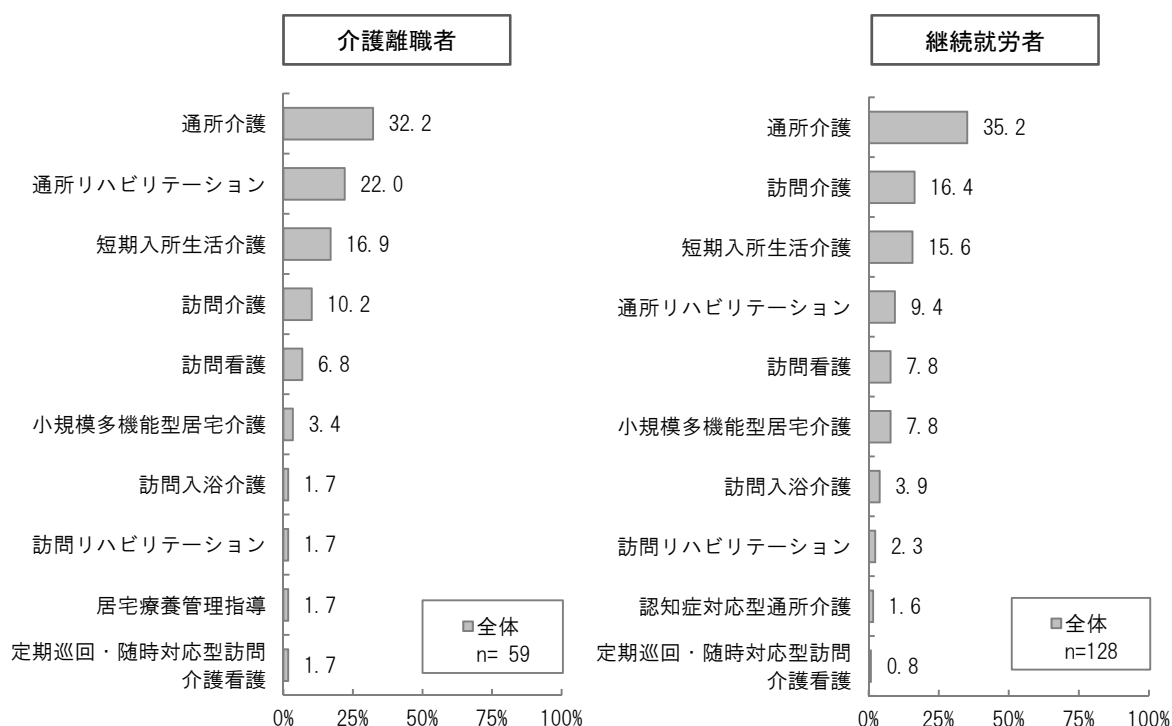
① 介護給付サービスの利用状況

○介護離職者の介護給付サービスの利用状況（介護保険サービス利用上位10位）をみると、「通所介護」（32.2%）が最も高く、次いで「通所リハビリテーション」（22.0%）、「短期入所生活介護」（16.9%）、「訪問介護」（10.2%）の順となっています。

○一方、継続就労者では「通所介護」（35.2%）が最も高く、次いで「訪問介護」（16.4%）、「短期入所生活介護」（15.6%）の順となっています。

○介護離職者と継続就労者の差をみると、介護離職者の「通所介護」の利用割合は継続就労者を3.0ポイント下回っています。

「介護離職者・継続就労者別」×「介護保険サービス利用状況」（上位10位）【再掲】



※認定データとの突合

※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

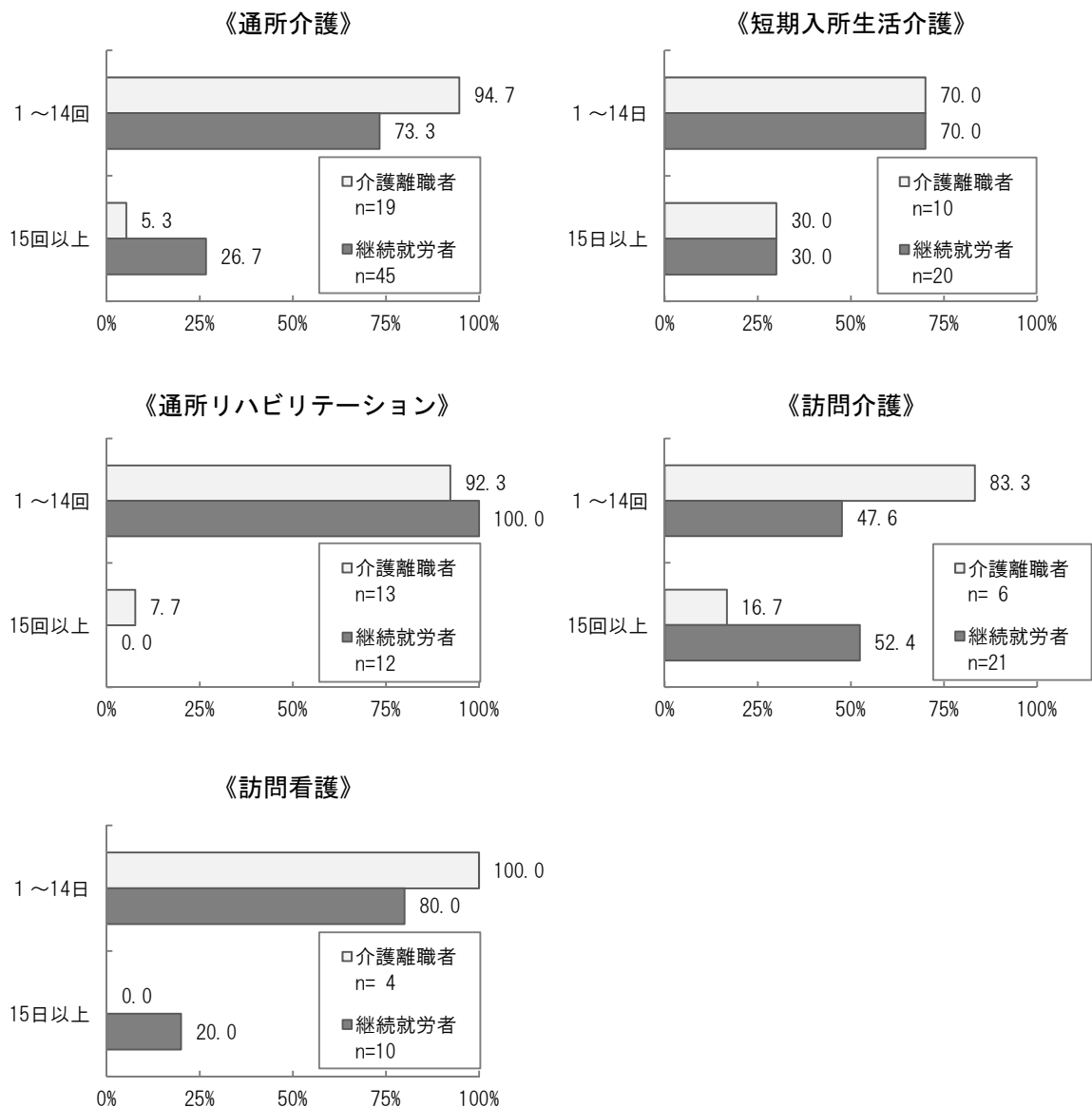
② 介護給付サービス別の実日数（利用割合の高いサービスのみ）

○利用割合の高い上位5位のサービスの利用実回数・実日数をみると、介護離職者はいずれのサービスも「1～14回（日）」の利用が高くなっています。一方、「15回（日）以上」の利用では短期入所生活介護が30.0%となっています。

○継続就労者は訪問介護を除いたサービスで「1～14回（日）」の利用が高くなっています。一方、「15回（日）以上」の利用では訪問介護が52.4%となっています。

○介護離職者と継続就労者との差をみると、介護離職者は通所介護で「1～14回」利用する方が継続就労者を21.4^{ポイント}上回っています。

「介護離職者・継続就労者別」×要介護者の「サービス利用日数」（利用割合上位5位）



※認定データとの突合

※継続就労者：①問7で「転職した」と回答（「3」「4」を選択）した方、②「5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答し、問14で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方の計

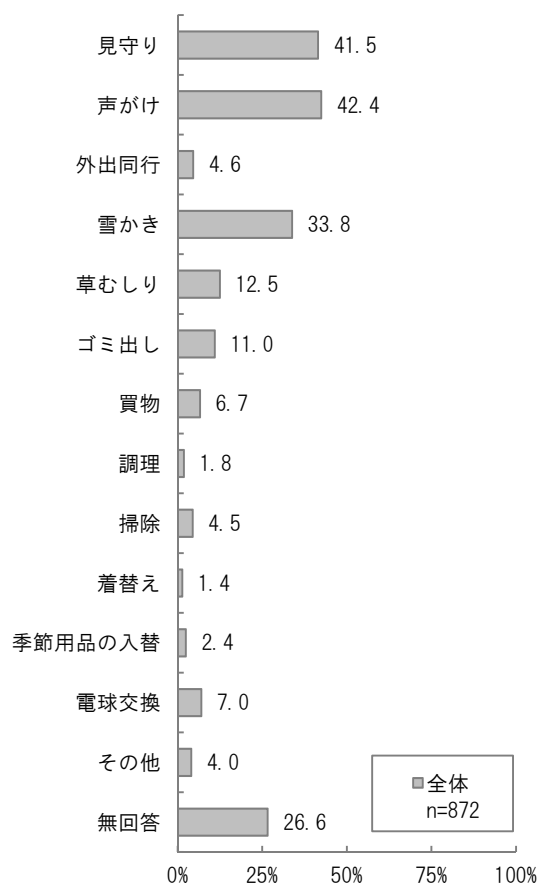
7 山形市独自設問

(1) 近隣からの支援に関する意向

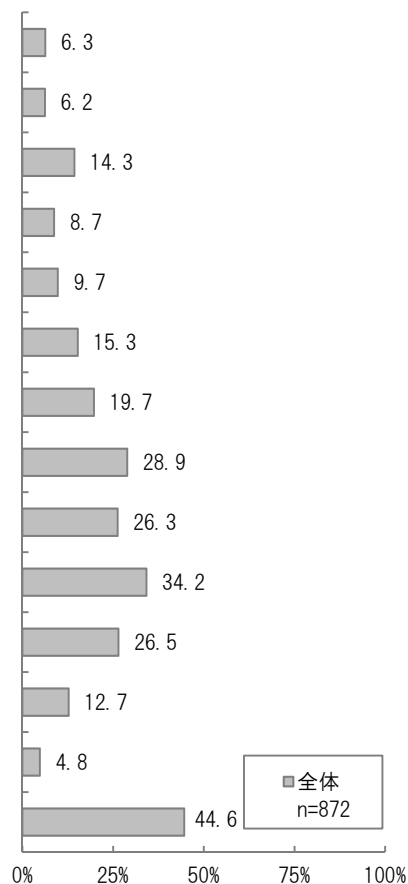
○近隣の人をお願いしたい支援についてみると、「声かけ」(42.4%)と「見守り」(41.5%)が均衡して希望割合が高く、次いで「雪かき」(33.8%)となっています。

○逆に近隣の人をお願いしたくない支援についてみると、「着替え」(34.2%)、「調理」(28.9%)、「季節用品の入替え」(26.5%)、「掃除」(26.3%)で割合が高く、生活空間に入らないと支援ができない内容のサービスは抵抗があるようです。

問 16 近隣の人をお願いしたい支援



問 16-1 近隣の人をお願いしたくない支援

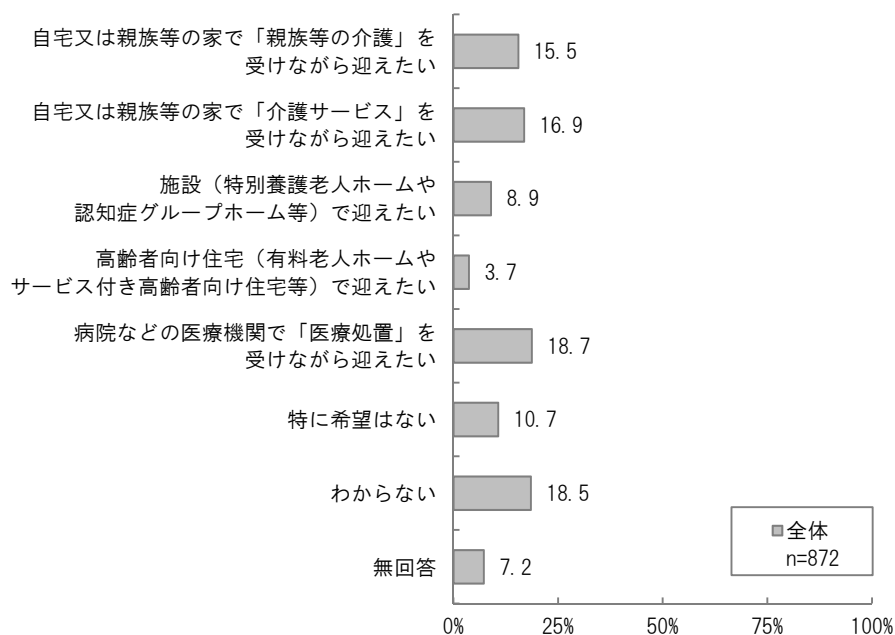


(2) 終末期に関する意向

○終末期は「病院などの医療機関で「医療処置」を受けながら迎えたい」(18.7%)と回答した方が最も高いものの、僅差で「わからない」(18.5%)と回答した方も約2割となっています。

また、「自宅又は親族等の家で【親族等の介護】を受けながら迎えたい」(15.5%)と「自宅又は親族等の家で【介護サービス】を受けながら迎えたい」(16.9%)を合わせた自宅又は親族宅を希望する方は32.4%となっています。

問 17 終末期をどのように迎えたいか



(3) 高齢者保健福祉の施策について

〇市が優先すべき高齢者保健福祉施策としては、「家族介護者への支援」(51.1%)を挙げる割合が最も高く、次いで「介護が必要になっても自宅で生活が続けられるサービスの充実」(44.8%)となり、自宅での介護を支援する施策の充実を望んでいることが伺えます。

問 18 市が優先すべき高齢者保健福祉施策

